97-134

太江濤畝編

新歲事記

明治
36 12 28
內交

序

月は秋のもの柳は春のものなと定めたるは先人の識見にして草木瓜果禽獸魚介に至りても皆各々その季節ありこれ等か聚書拙からすと雖ども概ね陰暦時代の編纂に由るか故に今の新年を唱ふにも尚粉糊たる春景を謳するものなしとせす作者の誤は又題書の不完備に歸せすんはあらす既に吾人は太陽暦中に起臥し身邊の事物又疇昔の物にあらす茲に本書を撰びて這般の便宜に充んとすと云爾

明治三十六年十二月

大江濤畝

内容の辨

一行事祭典等の今日行はるゝものに就ては地方により純然太陽暦に依て行るゝ、所と猶太陰暦に依て行はるゝ、所と又は一月延へて太陽暦を以て行はるゝ、所の三種あり関東の都市は概ね前者に依り関西の市邑は中者に依り京畿附近は後者に由る所多くては一行事三月に亘りて始しきか故に本書は其事物の関係により之れを其一に定めたり地方により或は見る所あらゝ

一世間万般の事物を憧々八箇の部類に分ち事例不可能の事に属す本書中例せは門松を植物部に容れ注連飾を器財部に置きたる或は沖鯛と鯛川と所例したる類なりとせす本書に便ならしめんとて然かせしもあり其限界分れ難き河海の境域に除おかるものには関係の稍深き部類の方に収容せり

一日本の行事は支那より輸入したるもの尠からす多く今日我の倍たるもの多くは彼の公事に出たり其之を悪く公故の部類に容れたれは又始祖に属へされは現時一般国民の行ふものは是を公事とせす各種の部類に収めたるもの多し但し公故なる部類は公事と故事とを併用したる嫌無しとせず

一行事の中に今は全く廃絶せしものあり其之を収めたるは古句に参考とし又は古体の作句に便ならんとてなり

一徐書したるものに同物異名のものと同種異物の名とあり唯便宜を慮りて採録したるのみ

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
正月	元始祭 三日	福壽草	初鶏（ハツドリ）	勅題	初手水（ハツテウヅ）	大福	太箸（フトバシ）
元日	*歳徳	福つゝ草 元日草	初鴉（ハツガラス）	四方拝 一日	井ひらき	結昆布	蓬莱
元旦、鶏旦、元朝	恵方棚 とし棚	*柳	*嫁か君	年賀式	*年男	柑子梅	橘、橙、蜜柑、柑子、黄勝栗
新年	*門の神棚	*椿	*寄干支動物	君が代唱ふ	年禮	雑煮	野老、梅干、白柿、串柿、飾
初とし 年の初	大黒舞	*梅	朝拝	元日節會 朝賀	礼者 年賀状 禮帳 名刺配	若餅	掛蓬莱 包蓬莱
年頭（ネンヒス） 迎一年	戎（エビス） 廻（マハシ）	葉牡丹		御慶 年賀會	開牛蒡	飾海老	
明る年 年立かへる	若戎	門松		奏賀 拝賀	遣羽子（ヤリハゴ）	昆布飾	尉斗飾
*年の花	*星佛	門松 飾		小朝拝	はね突く	*掛鯛	掛蕗
三の朝	上野謠初 三日	竹飾 立松		政事始 四日	手毬突（テマリツク）	数の子	小殿原

*一九頁参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
三の始 三か日	両大師詣	飾松	消防出初 四日	初夢	料の物 両の物	穂俵	
初明り	初水天宮 五日	七艸	新年宴會 五日	稲つむ 稲摘	俵子	飾藁	
はつ日	初藥師 八日	蕭 五さやう	講書初 七日	書初	押年魚	福藁	
初日影	初甲子 大黒	芹 はこべら	觀兵式 八日	試筆 筆初 吉書初	海嶽身	注連飾	
はつ空	初寅	佛の座 すゞな	歌御會始 十八日	讀初	螺肴	七五三縄 しりくへ縄	
初みそら	毘沙門 功德經	すゞしろ	卯祓	弾初 吹初	蛤	飾縄 輪飾	
若水	牧馬奄御 福かき	薺	卯槌	縫初	もやし獨活	飾炭	
御降	初卯 住吉	穂長 山草	鶴の庖丁	弓はじめ	慈姑	庭竈	
歳	初己巳 蛇天	裏白	國栖奏	船乘初 馬乘初	唹積	寶船	
去歳 今年	初庚申 帝釋	楪	國栖人	鐵砲打初 蹴鞠初	梅花酒	初暦	

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
昔の年 ふる年	初亥 摩利支天	親子艸					
注連の内	祇園削掛 一日						
松の内	有馬入浴初						
六日年越	十日戎						
七日正月	宵戎 初戎						
人日 霞辰	小たから 寶船						
十四日年越	八幡詣 十五日						
小正月 十五日	男山參 厄神參						
上元日 花燈夕	蘇民將來						
二十日正月							
			腹赤	帯初	節振舞	暦開	
			諸司奏	藏開き	朝節 夕節	歳玉	
			臨時客 二日	ひめ始	節小袖	羽子板	
			如願	初風呂	着初始	胡鬼板	
			供御藥	湯殿はじめ	子日衣	破魔弓	
			藥子	三物俳諧	葩煎	はま矢	
			書鶏貼	裏白俳諧 三物連歌	福沸	ぶり〳〵	
			藁草を懸く	裏白連歌	福鯛	毬打 玉打	
			參	引寶引	弊粥 七日	歌かるた	
			人を貼帳	萬歳 千歳 萬歳	蕭打 蕭はやす	雙六 トランプ	

*三〇頁参照
*三一頁参照

*四二頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
骨正月							
				七曜御暦	狩公（トキ）	七艸の粥・	十六むさ—
				院の拜禮	春駒	小豆粥祝（アツキカユイハフ）十五日	*藁盒子
				門戸を掩ふ	鳥追		幸籠
				*氷の樣（タヽシ）	懸想文賣（ケサウブミウリ）		*幸木
				*水祝	傀儡師（クワイライシ）		*粥杖
				水あひせ	*葩煎賣（ハセウリ）		かゆ柱 かゆの木
				初子の日	初相場		若水桶
				子の日の松 小松引	初賣		餅花
				子日の遊 初子の今日	初買、買初 初商、初荷		蔵玉
				の玉幕	*松囃子（マツバヤシ）		

*八頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
				謡曲初 舞そめ			
				新年會			
				歳旦開			
				鏡開 十一日			
				延年講（ヨネンコウ） 十四日			
				*左義長			
				三毬打、爆竹、吉書揚、どんど、菱餅ほこちす、			

*八頁参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
一月	孝明天皇祭 三十日	水仙	初白魚	叙位 正月五日	門松を撤す	正月小袖	具足鏡開
正月、太郎月、睦月、睦み月	太廟御例祭 十二日	蕗	八目鰻	白馬節會 全七日	店卸	鯛味噌	*鏡臺祝
祝月、初空月、菖十二月	阿倍野祭 摂津 二十四日	早咲梅	鯉 捆 耳和田	青馬節會	決算總會	凍鮒	
嘉平月、年冬、二陽月、涂月	初觀音 十八日	寒梅	寒鯉取	御弓 全	初芝居	藥食	
三冬月、端節、春待月、急景	初大師 二十一日	室の梅		女叙位 正月 全八日	*綱曳	鹿賣	
殷正、暮冬、抄冬	初不動 二十八日	探梅		御連歌 全十一日	寒弾	獸肉	
小寒 五日前後	初荒神 三十日	冬椿		外記政初 全	寒聲	寒晒	
芹乃ち榮う、水泉動	船玉祭	早咲椿		縣召 全	避寒	蒟蒻氷る	
雉初て雊く	愛染詣	室の椿		*踏歌 男全十四日 女全十六日	本塚所相撲	豆腐氷る	
寒の入	柴神事	臘梅		あられは～りかさ～の綿		寒造酒	

*九頁参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
大寒 二十一日前後	天狗宴	寒筍	青柳うたふ、大岸うたふ、	*二十日團子			
欵冬華さく、水澤復堅	真面富	孟宗	梅枝うたふ、萬春樂、春	宗太郎漬			
鷄初て乳む	御修法	若菜	鶯囀、落梅曲、春樂				
寒月	菜摘川神事	初若菜					
寒四郎 二十三日前後	大元師法						
春近さ	御齋宮						
春待、春隣	嚴島祭						
	遊行札切						
	三條祭						
	獅子頭神事						

住吉御弓		
吉田清祓		
臘八粥	臘八温糟粥	十二月八日
御福迎		
寒念佛		
寒垢離		
裸參		
はたー參		
野施行		

（五頁）

左義長閤禁中に於て行せられしなり今は撤去したる注連の類を集めて焚き字を書きたる紙を投するに高く擧れは上達す（〜三云ふ又餅を其火に燒て食へはよしとこ

（六頁）

白馬節會此日白馬を見れは邪氣を除くと傳ふ光仁天皇の朝より始るといふ

踏歌天武の朝より始り〜新年の祝詞也内藏寮祿の絹を机に積みて持出て踏歌の人は入て歌曲を奏す内侍二人絹を其人々に授く

綱曳江州大津の人三井寺門前の人と原野に於て相分れて綱を引く勝たるは稲ありとなす後所々に催す大阪難波にもあり

鏡蓋就二十日婦人鏡蓋の鏡餅を祝ふ蓋〜二十日初頭と相近〜初頭を祝ふ意なり

雪安居		
鞍馬山忌		
御國忌		
道公祀	菅原道真	二十五日
大神宗	伊勢大神宗	
蕪村忌	蕪村	十二月十五日

（七頁）

御薪百官悉く薪を奉りて宮内省に納めしなり天武の朝より始る位により數量の定ありたり

天穿紅縷を以て煎餅を繋き屋上に置き天穿を補ふといふ

二十日團子小豆の團子なり蓋〜赤色は天穿の紅縷に准ふならんか

（八頁）

臘八粥又温糟粥と云ふ昆布串柿大豆粉藥等を加へて粥を造る釋迦成道の日にして之を食して邪を拂ひ疫を祛ひ疾毒を卻くといへり

春*	伊勢參宮	蔓詞の花	蝶	霞の洞*	目刺
春色	伊勢音頭	柳	黄蝶、胡蝶、てふ〳〵	春の宮*	木地燈檠
佐保姫		風見艸 柳髮	あけはの蝶 蝶		酢蛤
山笑		椿 玉椿	鶯		木の芽漬
東風		つら〳〵椿	金衣鳥 緑衣公子		鮒鱠
春の水		雜菜摘	經よみ鳥 鶯 笛		青ぬた
春の海		芹	駒鳥		田樂
永日		二葉芹	百千鳥		
遲日		苣	雲雀		
昏遲き		唐ちさ 川ちさ	揚雲雀 雲雀笛		

長閑	嫁菜	雲雀床			
霞	菠薐菜	雉子			
朝霞、夕霞、鐘霞む	青からし	水鳥囀			
陽炎	山茨	鳥囀			
糸ゆふ	山椒の皮	鶯			
麗	獨活	琴引鳥			
暖	防風	子持沙魚			
ぬくき	慈姑	鱒			
水ぬるむ	烏芋	鮏			
風ぬるむ	野老掘	蜆			

○春は略二月四日の立春より雨水啓蟄春分清明穀雨を經て五月六日の立夏に至る約九十一日間を云ふ

○霞の洞は仙境を稱へ又院の御所をも指す

○春の宮皇太子を稱し奉る

春

乾坤	宗教	植物	動物
春霄		山胡根（ヤマニンジン）	蛤
春の月		若和布（ワカメ）	洲蛤
朧月		海苔（ノリ）	鳥貝
朧夜、鐘朧、おぼろ影		櫻海苔 青海苔	
春雨（ハル サメ）		淺草海苔	
春に逢はや		鹿角菜（ヒジキ）	
春ならぬ春ーらぬ		海雲（ヒツグ）	
春まけて			

○節分二月なれとも立春の前日なれは冬たる事論なし齊習にて此日年を重ぬるといふ

○初風春風初めて駘蕩として靜なるを稱す

○泊狩前冬に山に入て雉子の啼く處を囲き露宿して未明より獵を始む

○桃符風俗通に曰く東海に桃の大樹あり屈盤三千里枝東北に向ふ神荼鬱壘の二神此所を護り鬼の出入するあらは之を捕へて虎に食はしむ鬼大に恐ると黄帝之に象て桃板を門戸の上に懸く

○葭灰飛す葭の灰を竹管に充て曆者氣を候す

○綵燕立春の日燕の形を造り髪に挿み宜春の字を門に掲け或は小旗を造り春旛と稱し女の頭に掛け又は春蝶を造りて花の枝に懸くる等皆迎新の意なり

○春盤立春の日生菜を食ふは迎新の意なり生菜春餅を贈答するを春盤といふ

二月

乾坤	宗教	植物	動物
二月	枚岡祭（河内一日）	畑打	白魚
舊一月、開春、初春、上春	鵜戸祭（日向全）	畑かへす 田をすく	初鮒
規春、三陽、孟春、發春	菅生石部祭（加賀十日）	田をかへす	飯蛸魚
初陽、夏正、新陽、太猱	四條畷祭（河内十二日）	種初（種物）	淺蜊
節分（立春前日）*	仁皇天皇祭（二十一日）	蕗の臺（フキノタウ）	鳥交尾
と〜越	祈年祭班幣（四日）	ふきのめ ふきの姑	兎打
立春（四日前後）	祈年祭班幣（神宮十七日）	下萌（シタモエ）	猫の戀
東風解氷 黄鶯啼く	鶯春（カヘ太宰府 旧正月七日）	若草（初艸 新艸）	妻戀猫
魚氷に上る	初午（稲荷）	若芝	獸交尾
*初凪（ハツナギ）	二の午 三の午	木の芽	*泊狩

乾坤	宗教	植物	動物
紀元節（十一日）	柊賣（ヒラギウリ 節分）	梅花衣	炮烙賣（節分）
舊正月	柊さす（仝）	鶯衣	鶴羽織（仝）
*桃符	鰯頭をさす なよーの頭	鶯の袖	
桃板、仙木、桃梗、鬱壘	厄かとし（仝）	柳衣	
神茶（シント）桃仁湯を服	厄拂（仝）	柳のきぬ	
*葭灰飛す	豆はやす（仝）	よばし麥賣（節分）	
*綵燕	豆打（仝）	年取豆（仝）	
戴春燕 春旛	福は内（仝）	干蘿蔔	
*春盤	鬼は外（仝）	干蘿蔔	
生菜 春餅	土龍打（ウコロウチ 仝）	町汁	

春

春雪			
春の月		山胡根（ヤマニンジン）	蛤
朧月		若和布（ワカメ）	洲蛤
朧夜、錦朧、おぼろ影		海苔（ノリ）	鳥貝
春雨（ハルサメ）		櫻海苔 青海苔	
春に逢はや		淺草海苔	
春ならぬ春ーらぬ		鹿角菜（ヒシキ）	
春をけて		海雲（ノリ）	

○節分二月なれども立春の前日なれば冬たる事論なし舊習にて此日年を重ぬるといふ

○初風春風初めて駘蕩として靜なるを稱す

○泊狩前晷に山に入て雉子の啼く處を聞き露宿して未明より獵を始む

○桃符風俗通に曰く東海に桃の大樹あり屈盤三千里枝東北に向ふ神荼鬱壘の二神此所を護り鬼の出入するあらは之を捕へて虎に食はしむ鬼大に恐るゝと黃帝之に象て桃板を門戸の上に懸く

○葭灰飛す葭の灰を竹管に充て曆者氣を候す

○綵燕立春の日燕の形を造り髮に挿み宜春の字を門に掛け或は小旗を造り春旛と稱し女の頭に挿け又は春蝶を造りて花の枝に懸くる等皆迎新の意なり

○春盤立春の日生菜を食ふは迎新の意なり生菜春餅を贈答するを春盤といふ

二月

二月	枚岡祭（河内 一日）	畑打	白魚
舊二月、開春、初春、上春	鵜戸祭（日向 仝）	畑かへす 田をすく	初鮒
規春、三陽、孟春、發春	菅生石部祭（加賀 十日）	田をかへす	飯章魚
初陽、夏正、新陽、太猱	四條畷祭（河内 十二日）	種初 種物	淺蜊
節分（立春前日）*	仁皇天皇祭（二十一日）	蕗の臺（フキ）	烏交尾
と〜越	祈年祭班幣（四日）	ふきのめ ふきの姑	兎打
立春（四日 晴）	祈年祭班幣（神宮 十七日）	下萌（シタモエ）	猫の戀
東風解氷 黃鶯啼く	磐春（カヘ六等府 武正月七日）	若草（初艸 新艸）	妻戀猫
魚氷に上る	初午（稲荷）	若芝	獸交尾
初風（ハツナギ）*	二の午 三の午	木の芽	泊狩*

紀元節（十一日）	柊賣（ヒヒラギウリ 節分）	梅花衣	炮烙賣（節分）
舊正月	柊さす（仝）	鶯衣	鶴羽織（仝）
桃符*	鰯頭をさす なよーの頭	鶯の袖	
桃板、仙木、桃梗、鬱壘	厄おとし（仝）	柳衣	
神荼（シント）桃仁湯を服	厄拂（仝）	柳のきぬ	
葭灰飛す*	豆はやす（仝）	よばし麥賣（節分）	
綵燕*	豆打（仝）	年取豆（仝）	
戴春燕 春旛	福は內（仝）	千蕪	
春盤*	鬼は外（仝）	千蘿蔔	
生菜 春餅	十龍打（カコロウチ 仝）	町汁	

乾坤	宗教	植物	動物	公故人事	衣食	器財
初東風（ハツコチ）	小網神社祭（四日）	筆頭菜（ツクツクシ）土筆	泊山	地黄粥	初午芝居	*六餅
初霞	泉岳寺詣（全）	つくゝぼふし、筆つばな	泊鷹	紫蘇粥	二の替芝居	
春永	東福寺懺法	松の花	鳴鳥狩（ナイトリカリ）	*繪踏	*數入	
冴かへる	本明寺詣	若緑、若松十かへりの花	鈴子さす	華聖頓誕辰（ソシントン）二十二日	雛市	
春寒	春田御田	蓮根掘	*白尾鷹		墨ぬり	
餘寒	玉せり（箱崎）	磯菜摘（若菜摘）	雉尾鷹			
凍かへる（イテ）	摩耶參（西ノ宮初午）	根芹掘	朝鷹			
春の雪	居籠（西ノ宮正月九日）	蕈菜（エダ）摘				
淡雪	舊十日戒（全十日）	姫菜（カヽギ）摘				
名殘雪（ナゴリノユキ）殘雪	*常陸帶	隠菜、うはぎ嫁か袂、				

乾坤	宗教	植物	動物
去年氷（コソノコホリ）殘氷	水間祭（和泉初午）	水菜（水入菜）	
雨水（十九日節氣）	長谷だゞ押	*鶯菜	
霞始て棲く		芹（根白蛸）	
凍解（イテ）トケ		*蕈（クヽタチ）	
雪解		葉（ヒコバエ）	
ゆきげ水		堀入	
氷解		野大根	
氷流るゝ		芹菜花	
*閏（ウルウ）年閏月（トシ）		梅（花の兄 春告蛸）	

○常陸帶正月十日鹿島神宮に行ふ男女の名を布帶に記し相結ひて良緣を占ふ

○白尾鷹春は鷹の心山へ歸らんとする故に鶴の羽を其尾に繪き尚雪ある如く思はしむとなり

○繪踏昔は耶蘇を邪法なりとし其像を寫し人集りて之を踏みたり

○數入遊樂する所なくは數に入て遊ふとの一說あり雇人暇を得て自れの欲する儘に遊ふなり東京は一月十六日大阪は舊一月十六日京都は二月十六日なり恐くは宿入の轉訛ならん

○六餅大和の俚俗にて數入なり嫁し たる女親里に歸るに必す餅を搗く之を十六餅と云ふ泉州にては六入と云へり皆轉訛なるへし

○閏年西暦紀元を四にて除し去る事を得る年には此月二十九日あり

○蕈蕪の苗なり○鶯菜は其三寸許の時を云ふ

三月	春季皇靈祭	紅梅	燕	*耀	*二日灸	*治鼈酒	凡巾
舊二月、如月、令月、夾鐘	春季神殿祭	未開紅	乙鳥、つばくら	*生子を献す	舊二月二日	餅花煎る	紙鳶、たこのぼり
陽仲、仲春、仲和、初花月	神部祭	黄梅	つばくらめの巣	*刈見	*天灸	涅槃	鳶のぼり、奴いか
梅津月、衣更着	淺間祭	八重梅	乙鳥わたる		蠣船歸る	餃・餅	
きさらぎ、梅見月	大歲御祖祭	越中梅	歸鴈		百日男歸る	蒸鰈	朝鮮いか、角いか
雪消月、小草生月	若狹彦祭	座論梅	去る雁、北へ行雁				尾張いか
啓蟄	春日祭	若紫	雁の別、雁の名殘				風箏
蟄蟲戸開く、菜花蝶化す	貫前祭	接骨木の花	今はの雁				酒袋洗
鷹化鳩と成	廣田祭	鴨脚の花・花催花待	引鶴				袋あらひ
*花朝 舊二月十五日	宇佐祭		引鴨				

蝶會	志波彦祭	初花	鳥の巢
一夜正月	釋奠	初櫻	雀の子
社日 舊二月十日前後	をさをつり	彼岸櫻	孕雀、雀巣、就す、巣
*社翁の雨	國韓神祭	一重櫻、姫櫻、八重櫻、兒櫻	松倉鳥
春分 舊二月十日前後	氷上祭	糸櫻	貌鳥
從始て巣ふ、櫻始て開く	雲隆寺會式	草敏	かほよ鳥、果鳥
雷乃聲發す	菜種御供	萩若葉、荻若葉	はこ鳥
初雷	二月堂行	蔦若葉、蒟若葉	在保姫鷹
初雷	二月堂水取 舊二月十二日	蒟杞	孕鹿
初稲妻	*涅槃會 舊二月十五日	豆加木	鹿角落

○花朝白花生日とも春の中央とも云ひて當す唐土にては此日蝶を打つ會ありたり

○躍春庶民に米穀を貸下らるゝ事あり

○生子を獻す陰暦二月一月青饗に百穀瓜果の種子を盛り相賂答す又宜春の酒を嚥て勾芒神を祭り豐年を祈る

○列見六位以下の藝能あるものを集め器量を試むかさーの花を各冠にさす大臣は藤花納言は櫻花參議六位は造花其以下は時の花なり

○二日灸此日点灸すれは其効驗他日に倍すとゝ

○天灸小見の額上に朱丸を点ー驚風の呪とす京都は舊二日大抵は全四日なり二日灸より來りー者ならん

○治鼈酒此日酒を飲めは耳鼈を治すと石林詩話に見ゑたり

○社翁の雨社公社母社母水を食はす社日雨あれは之を社翁の雨と呼ふ

以下次頁

*虫出し雷	去一二月の別	山蘭	艇出し
*雪果（ユキノハナ）	涅槃像の別	苗代茱萸（ナハシログミ）	龜なく
龍登天	柱炬火（ハシラタイマツ）（歳暮）	苗代（ナハシロ）なま一垣	*蛙（カハズ）
龍まき	遺教經（ユイケウ）（仝）	雜草摘	蛙子
	訓讀會（仝）	逢摘（ヨムギ）	御玉杓子（かへる子）
	彼岸會（十八日ヨリ）	もち艸つむ	青蛙（アヲガヘル）
	踊念佛（又正寺）	草芳（クサカンバシ）	蟇（ヒキ）
	八丁鐘（仝）	蒲公英（タンポヽ）	蛇
	薪能	つゝみ艸	螈（トカゲ）
若宮能芝能		菜花（ナノハナ）	蜂巣

（永　節）

○燈後漢の明帝十五年孔子の邸に幸して仲尼及七十二弟子を祭りし事あり先師を祀る禮也

○涅槃會周の穆王五十二年二月十五日天地震動して西方に白虹あり即ち佛の涅槃也と穆迦七十九歳にして入寂す此日天地の神人畜獄魚介の皆慟哭するの圖を掲く

○蟄出し雷仲春の候に雷乃聲を發し蟄虫悉く動くとあり即ち蟄の出る氣候の雷なり

○雪果世俗雪の終りは涅槃なりとて此頃雪の終りなり俗間餅を食ふ花供の誤傳なるにや

○鶯啼く鶯も田螺も此頃月の明き夜には啼く

吉野餅配（正二月一日）	蕨（ワラビ）さわらび	似我蜂（シガハチ）	
比良八講（仝八日）	紫のちり（かさわらび）	虻（アブト）あぶ	
祇園八講	蘋（ナヅナ）の花	蛇穴を出る	
吉祥院八講	虎杖（イタドリ）	蚓出る	
湯島砥餅（ユシマトモチ）（仝十日）	さいたつま	蟻いつる	
八幡初卯	種蒔	烏賊（イカ）	
積塔（仝十六日）	種ふせる（種ひたし）	もろこ	
五穀祭（仝九日）	種井（たね井）	鮒釣	
水口祭	西瓜蒔	目張（メバル）	
田の神	さゝけ蒔	田螺（タニシ）	

（一　月）

○年の花年初の景物を壽く心にて花といふ

○歳德頻梨女神の鎮座として吉方又は恵方といふ年々小差あり萬事の經營此方位より始む

○門の神柵入口の左を門丞右を戸丞として司門の神とせり之を祭りて邪を避くるの謂なり

○星佛九曜星の其年に屬する星を板行して賣るを買求て祭る

○柳稗梅菩通春季の者とすされと歳且にも用ゆれは其心すへし

○鼠か君鼠の事にて年初の謂なり

○寄干支動物子歳に鼠丑歳に牛なと置物に動物に種々用るなり句作にも歳且たるへし

○年男家人の中より撰みて煤拂より若水淘豆打等の役目を司らしむ

○掛鯰鯰双尾を藁にて結ひ簡上又は門口に掛け邪を避る盛夏おろして之を食ふ

三月

關帝祭	麻まき	蜷
烏祭（烏田）	藍まき	馬刀貝
大原野祭	接木（つき種）	なかた貝
太宰府會（全廿五日）	種芋	寄居虫
神軍（土代）	蓮植る	やどり貝
時宗踊念佛	莧苗	鯡子取る
季御讀經	羅蔔の花	
最勝會（四天王寺）	蕎麥	
行基祭	狗脊	
彦山祭	百合根	

（二月）

若水　若水の若やゝは春に逢ふて溫むをいふされど今は專ら年初の水を稱す

俵子　金海鼠の祝語にて俵といひて米穀の豐饒を祝ゝ用ゆ又太夏子と通ふを尋ゝ

押年魚　鹽鮎なり年初生れて其年生長するを以て年魚とて之を祝す

蛤惣姑　又春季の者なれとも歳且には邊家之を用ゆ

梅花酒　新年之を飲めは邪を拂ひ幸を得るとそ

寶船　昔は節分の夜船の畫を寢床の下に布き吉夢あれは來年吉事多ゝとなゝ凶夢ならは川に流ゝて捨たり其船七寶を滿載せる圖なるにより今新年に吉兆とゝて之を用ゆ

三月

常樂會（全十五日）	土栗	
貝寄風	水葱摘	
聖靈會（天王寺全二十二日）	胡葱	
清盛忌（全四日）	松菜	
兼好忌（全十五日）	杉菜	
西行忌（全）	野びる	
元政忌（八十八日）	菫	
利久忌（全二十八日）	蒜	
其角忌（全三十日）	馬齒の花	
	長豆草	

貝寄風　舊二月二十日浪花の浦邊に吹ゝ風なり此日打寄せたる貝を以て四天王寺聖德太子靈前に飾る

聖靈會　四天王寺には太子の鳳輦を聖靈院より出ゝて六時堂に至る會式あり世俗來さの果は聖靈會と云ひ是より追日暖氣を加ふ

乾坤宗教	植物	動物
	角ぐむ蘆	
	芦の角、芦芽、あしの錐	
	山焼	
	野焼、畑焼、焼野	
	焼野の薄（ヤケノ・スキ）	
	末黒の薄（スクロ）	
	苅生の薄	
	切生の薄	
	萩の焼原	

○○彌生春になりて萌出てたる艸のいよ〳〵生れは云ふなり

○○呵子鳥此鳥の說樣々ありされと深山にありて物淋し〳〵く呼ひ合ふ鳥の音なるは疑ひなし

○○○柳太刀淵明桃柳を好み柳の中に住て長壽を得〳〵を以て五柳先生と呼〳〵り之を嘉儀として上巳に桃櫻を挿し又は佩ふ癘毒を免るとも云ふ

○○出代春に富者あり一人の子を生みたるも之を惡みて隣人に與ふ隣家是より富み其家甚た喜ふ由りて又取還すに富原の如し〳〵是二月二日也と雲嶠類要に見にたり陰暦二月及八月の二日は奴僕の交代時なり今關東と關西同〳〵からす

○○○○島原道中此地の娼婦は太夫と稱〳〵て世に喧傳す例年此日廓中を練り歩行くさ〳〵かけ傘八文字禿なと其名夙に聞ゆ

乾坤宗教	植物	動物
四月		
舊三月殘春、五陽		
季春、複月春晩、竹秋		
殿春、春歸姑洗、中姑		
春末鶯時、蠶月、春抄		
暮春、櫻月花見月		
春惜月花津月		
夢見月しめいろ月		
九春、晩春		
*彌生（ヤヒヨ）		
神武天皇祭		
大和祭（大和一日）		
平野祭（山城二日）		
松尾祭（仝）		
氣多祭（能登三日）		
梅宮祭（山城仝）		
龍田祭（大和四日）		
廣瀬祭（仝）		
護王祭（山城仝）		
美保祭（出雲七日）		
桃花		
白桃、緋桃、姫桃、源平桃		
けも、の花三千代草		
海棠		
ねむれる花からなし		
汐にすだ		
菊根分		
菊苗、菊植替		
春菊高麗菊吾妻菊		
山吹八重山吹		
雛鶴		
引殘鶴		
雲に入鳥		
鳥歸る		
*呼子鳥		
鷹の巢		
郭公巢		
鳶の巢		
鶉（ウヅラ）の巢		
麥鶉		
上巳（三月三日）		
元巳、重三上除、巳日祓		
桃花節句		
曲水		
めくり水巳字の盃		
盃を流す盃を浮す		
羽觴を飛す		
*柳太刀		
柳の髮		
桃柳芽（明石仝）		
*出代		
雛祭		
雛遊、雛遊、雛飾、立飾		
紙雛、内裏雛女節句		
都踊		
野遊		
白酒		
隅田川競艇		
桃の酒		
草の餅		
小弓引		
土佐海硯取		
櫻衣（櫻襲）		
山吹衣（裏山吹）		
躑躅衣		
茶の試		
利茶、喫茶		
都踊		
白酒		
桃の酒		
草の餅		
蓬もち、はゝこ餅		
菱の餅		
櫻衣		
焜塞		
囲焜裏塞		
火燵塞		
焙焜炭下す		
上魚梁（ノボリヤナ）		

乾坤	宗教	植物	動物	公役人事	衣食	器財
いやおひ	大原野祭 山城 八日	櫻の花	あひふひ、なき	鬪鷄	紅毛渡る	
彌生山	稻荷祭 全 九日	連翹	鶯合	尙齒會	露海初航	未刻茶
清明 五日前後	大神祭 大和 全	藤 藤かつら、白藤、藤浪、	鷹忘飼	鞦韆	銃獵停止 十五日	閒炊
田鼠化成鶉 玄鳥至る	香取祭 下総 十四日	藤棚、藤蔓、藤綱、藤とふ	仙臺馬市	半仙の戲		
虹始て見る	軍人祭	ツヽ、躑躅、玲瓏、袋黃	鷸兒掃立	鷸		
初虹	日吉祭 近江 十四日	白…紅…餅…深山…	柔子	油花卜 全	踏青 三月三日	
潮干	平安祭 山城 十五日	姫…移姫…岩…蓮花…	蝦母	榆柳の火		
蛤とり 蛤にじる	時代行列	沈丁花		杏粥、桃花粥、雪蘭、青精飯		
めかる時	建部祭 近江 全	長春の花	若鮎	寒食		
北窓明る	金鑽祭 武藏 全	木蓮の花	小鮎 あゆ汲			

乾坤	宗教	植物	動物
忘霜	上諏訪祭 信濃 全	木瓜花 ぼけ	のぼり鮎
別れ霜 名殘霜	熊野座祭 紀伊 全	馬酔木の花	魚島
土用 十八日前後	生田祭 攝津 全	楊梅の花	生船
穀雨 二十日前後	淺間祭 甲斐 全	蘇枋の花	櫻鯛
楊入江爲蒋 鳴鳩拂其羽	西寒多祭 豐後 全	石南花	櫻魚
霜止苗出つ	二荒山祭 下野 十六日	棠梨の花	櫻鰔
三月盡	東照祭 駿河 十七日	梨の花	梭魚子
行春 歸る春	須佐祭 出雲 十八日	麥なーの花 浦なーの花	いかなこ
暮る春 春の限	小國祭 近江 全	林檎の花	柳鮠
春湊 春の別	吉田祭 山城 全	杏花 ももから	櫻貝

めかる時蛙の啼きつゝ時うと〜〜と眠氣のさす春陽霞蒸たるをいふ

平安祭藤原より德川に至る各其時代名家の行裝にて三百人許の行列あり京都市中の人士之れを觀む考古の好祭禮なり

鷸の忘飼鷸は四月烏屋に入れ七月に至て羽毛替り終る春は雌鳥を飼はざるも此時に限りて飼ふと三百首抄に出てたり

踏青唐の風俗にて士女の遊戲なり踏青の鞋履を上ると云ふ事あり按ずるに野遊の類ならん

油花卜婦女蕓花を以て油に点し水上に洒く龍鳳花井の狀をなせば吉事ありと爲す

榆柳の火を取て侍臣に賜ふ事唐朝にあり杏粥杏羹等皆寒食の日の食物にして陽氣に順ふ也

寒食冬至を去る百五日秦人此日火食を禁す詩に曰く二月江南花滿枝他鄕寒食還堪悲貧居往往無煙火不獨明朝爲介推

（以下次頁）

乾坤	宗教	植物	動物
春を惜む 春暮れて	宇倍祭（因幡 二十一日）	李の花（スモヽ）	
春過ぎて 春に遲る	大山祇祭（伊勢 二十二日）	山茱萸花（サンシユユ）	
春の名殘 夏隣る	多賀祭（近江 全）	櫻桃の花（ユヅラ）	
夏近き	伊弉諾祭（淡路 全）	ゆすら梅	
	眞清田祭（尾張 全）	あらせいと	
	靈山祭（岩代 全）	胡桃の花（クルミ）	
	射水祭（越中 二十三日）	棗の花（ナツメ）	
	度津祭（佐渡 全）	楸の花（ヒサギ）	
	中山祭（美作 二十四日）	果櫚の花（クワリン）	
	籠祭（丹後 全）	玉帶花（ニハサクラ）	

（承前）

○○○露海初航露國港灣漸く氷解けて航海するを得

○○○未刻茶漸く苦遲くなり午後非時の食時なり職人の雲霞此時より始む

○○櫻鯘は淡水魚にて形鯉に似て八九寸此頃少〻櫻色を帶ひて美味最上の期なり

乾坤	宗教	植物	動物
	小御門祭（下野 二十九日）	青葉花	
	十三參	竹の花	
	經供養（天王寺）	小梅の花	
	椽の下の舞	杉の花	
	粟津祭（近江 二月 二日）	庭梅	
	水尾祭（近江 全 九日）	糊の花（ヒヽ）	
	戒壇堂開帳（陸奥山）	雪柳	
	叡山花摘（今 八日）	辛夷（コブシ）（ぶーしてこ）	
	安良日花（常陸 九日）	仙臺萩	
	中山無緣經（近江 三月十五日）	蘚苔（アサヅキマツ）	

*木母寺参 十五日	梅若祭 梅若涙雨	御忌 知恩院 十九日	壬生念佛 二十一日ヨリ十日	御影供 二十一日	浅草祭	御身拭 四月十九日	鎮花祭	高雄女詣	順峯入	花 花の錦 花の雪	*花屬詞 花に鳥	*花屬詞 花見、花守 花の主	花の宿 花の寝	花の袖 花の髮	花の姿 花の肌	花の顔 花の唇	花の袖 花の帷	花の鈴 花の車	花の衣 花の袖	花の袂	花籠、花桶 花生、花入	花筵、花結 花車、花筏	花簪、花瓶 花笠、花皿	花の戸 花の扉	花造、花軍 花嫁、花聟
雲井櫻、不斷櫻 揚貫妃、普賢像	淺蕾櫻、人丸櫻 西行櫻、墨染櫻	八重櫻、江戸櫻 伊勢櫻、行明櫻	朱櫻、溫櫻、白櫻 樺櫻、藤櫻、盛櫻	山桜、遅櫻 紅櫻、家櫻	花園、花の都 花畑、雨の花	花咲、花の浪 花曇、花の流	落花、花の輪 散花、花の雪	花盛、花吹雪 飛花、花の雪																	

須磨の祓	三圍祭 四月九日	蓮如忌 陰三月二十五日	善導忌 全十四日	石山祭	吉野會式	千本念佛	大原春さし 全二十三日	一乘寺祭	修學寺祭																
桐か谷、法輪寺 吉野草、夢見草	仇名草、いぼ櫻 犬櫻、太山府君	躑躅、かさし草 櫻戸、櫻人、櫻狩	夜櫻	五形花	草摘	一夜艸 一葉艸	駒引艸 菫すみれ	眉作花	茅花																

木母寺參貞元元年吉田少將惟房卿の一子梅若丸十二歳の時欺かれて東海の旅に赴き病て茲に歿す其母子を尋ね遂に狂ふて此所に來り里人に我子の死を聞く事謠曲隅田川にあり

花屬詞總て雪美しきたる詞なり俳諧には正花として植物に準す

夜櫻京都祇園の糸櫻殊に花命短けれは篝火を設けて觀賞せしむ甚た美觀也又各地の遊廓等に牡丹櫻を植つちね雪洞なと灯して景色を添ふ往來の燕脂と配合して美麗一入なり

御燈	小粉團花（コヅブリ）	
嵯峨念佛	鈴かけ	
最勝會（御斎會）	春蘭（オクリ）	
禮拜講	金鳳花	
開山忌（泉涌寺）	櫻草（九輪草・七重草）	
臨時祭（石清水）	馬蘭（バリン）	
高雄法花祭	母子草	
勸學會	金仙花	
比良祭	花蔓草（ケマン）	
祇園一切經	化偷草（エビヅル）	

（三月）

注連の内東京は七日まで關西は十五日迄門飾を置く其間の稱なり

七日正月恣に遊樂する日なるを以て正月と云ふなるへし

十日正月又同し

祇園削掛元旦鷄明祇園社に此神事あり其燃火を持ち歸りて煖炙の火に用ゆ

腹赤粽人吉備の朝勝鮨を獻してより年々筑紫より之を奉る

食ひさしたるを他の人又之を食ふを此食事の法といへり

臨時客昔正月二日關白家に諸卿を招て饗宴あり定りたる公務ならねは斯くいへり

如願といふ女あり商人此女を得てより物とりて命するに辯せさる物なし或年元旦甚た遲く起き出てぬ商人怒りて之を撲つに走りて糞壤の中に入て見にすと從是元旦細繩を以て土偶を縛し糞土の中に投する事あり

初瀬千部經	丁子草	
隱元忌（後三月三日）	青麥（麥の花）	
人磨忌（仝十八日）	通草花（アケビ）	
宗因忌（仝二十八日）	對馬風蘭	
二柳忌（仝二十九日）	萍初て生す	
	柿の臺	
	筑波根	
	卷耳（ナモミ）	
	茗荷（ノウガ）	
	瓜苗	

鷄貼戸正月鷄の畫を門に貼り其上に茱萸を懸れは百鬼之を畏ると云ふ

人貼帳七日綵を以て人を造り屏風の上に懸け又は髮に挿み或は隘答す改歲迎新の意なり

箇振舞正月親戚知友を招き饗應するを云ふ

子日衣營袖柳衣等春の衣服を用ひたりされと其日の着衣は皆子日衣と稱せり

福沸若水を沸したるもの餅を粥に加へたるものなと說あれと四日に至て殘りたる食物を加へ共に煖て合家之を食ふものなるへし

薺粥七艸を細かに刻みて加へたる粥なり之を食へは万病なしといふ

四月

		茄子苗
		三月菜
		三月大根
		若菰
		芹の花
		令法
		桑つみ
		茶摘 手始

○夏は路五月六日の立夏より小滿芒種夏至小暑大暑を經て八月八日の立秋に至る約九十一日間を云ふ

○夏籠佛教者陰暦四月十六日より仝七月十六日に至る一夏九旬の間禁足安居す安居とは出家修業の暇を得て私に住むなれども書寫供養等有緣無緣の爲めに夏行を修す

○ひる網晝間河海の間に漁り得たる小魚の類を斯く呼ひて浪花の市中に行商す

夏

夏*	夏籠*	
涼風	夏經、夏行 夏講、夏斷	
暑	夏花、一夏 結夏	
夏暁	安居*	
夏の月		
月涼し		
短夜		
明易き夜		

夏木立	荷葉	茗草
通し鴨	青鷺	鮎
鵜飼	鵜つかひ川	鵜船 鵜の篝
汗手拭	ハンカチフ	納涼浴衣
日覆	鼓簾	鼓扉風
干鳥賊	干鮑	池鯉府馬市

参	麻蒲團	
根芋	水鱧	鰺
茄子花	水鮏	流行病
蕗	鮴	午睡
馬齒莧	胡鱒	汗
刈葱	鰌	川狩
汗とり	洗鯉	洗鱸
鼓扉風	寢薦	布扉風
浚渫	油團	藤莚
皮蒲團	ひる網*	

*三八頁参看

乾坤宗教	植物	動物	公故人事衣食器財
	青山椒	鮑（アハビ）	
	柚山椒	錦魚（ちんちう）	
	蕎菜（シコンサイ）	丁班魚（ノダカ）（ばんだい）*	
	ぬなは	蟬	
	海松（ミル）	かつほ蟲	
	みるふさ つみる	螢	
	新海羅（シンフノリ）	蝸牛	
	ふのり干す	で、むし かたつむり	
		蛞蝓（ナメクジ）	
		蚯蚓（ミミズ）	
			鮓（スシ）
			一夜〻 早す鮓
			飯すし 鮒鮓、雀鮓
			こけら鮓 はた〳〵鮓
			蟹ひしこ*
			冷し汁 煮冷〻
			風爐の茶
			冷麥
			新麥
			青さし

乾坤宗教	植物	動物	公故人事衣食器財
			蚊遣（カヤリビ）火
			蚊帳
			扇
			團扇（ウチワ）
			夏帽
			麥藁帽 パナマ帽
			蜜柑帽 羅帽子
			日傘
			紙傘 蝙蝠傘

*三八頁参看

乾坤宗教	植物	動物	公故人事衣食器財
		蛭	
		蚤	
		蛙豆（アマメ）	
		水馬（ミヅスマシ）	
		子子（ボウフリ）	
		蚋（ブト）	
		蚊柱	
		蚊とんばう	
		蠅	
		蠅虎（ハエトリグモ）	
			麩（バツタイ）
			編笠
			葛まんぢう
			風鈴
			櫻餅*
			水玉*
			ビヤホール
			玻璃細工
			氷賣
			魚簗（ヤナ）
			削氷、氷店 水店
			やな打
			蜜柑水
			ラムネ
			柳陰酒（ヤナギカゲ）
			紫蘇酒

*三九頁参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
五月	結城祭（伊勢一日）	*木下闇	巣鷹	地久節（二十八日）	錦魚賣	單羽織	*襞簿（エビラ）
酉四月、余月 初夏、首夏	沼名前祭（備後二日）	新樹（若葉）	鷹堺入	青簾（旧四月一日）	松前渡	葵衣	麥藁笛
清雨、孟夏 早夏、乏月	水若酢祭（紀伊三日）	若楓	とや鷹の塒籠	下帶（サゲカビ）	大矢數	卯花衣	建具替
六陽、槐夏 新夏、純陽	大物忌祭（羽後全）	殘花	老鶯	加茂足揃（一日）	樹衣	夏座敷	
麥秋、立夏 仲呂、卯月	砥鹿祭（三河四日）	*余花	乱鶯	扇拜（旧四月一日）	新茶		
清和、梅月 正陽月	大國魂祭（武蔵五日）	葉柳	郭公	氷供	青茶 白茶		
夏初月 花殘月	菊池祭（肥後全）	葉櫻	杜鵑、山時鳥 橘鳥、齊手鳥	擬階奏	古茶		
卯花月 ととは月	南宮祭（美濃全）	櫻實	子規、不如歸 杜宇、慰ー鳥	駒曳	茶誥		
木の葉鳥月	靖國祭（武蔵六日）	茂る 木淺る 草茂る	四手の田長 くさち	孟夏旬	麥酒		
*八十八夜（四日初）	白山比咩祭（加賀全）	*若葉の花	夜たーー鳥 時鳥落ーー文		麥取		

*四〇頁参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
立夏（六日前後）	金崎祭（越前六日）	*わくら葉	*鶯附子				
蛙始て啼く 蚯蚓出つ	名和祭（伯耆七日）	若葉の紅葉	燕の子				
竹筍生す	古四王祭（羽後全）	常盤木落葉	*閑古鳥				
和清天	常磐祭（常陸十二日）	鬼箭若葉	蹴波鳥 かつこ鳥				
麥の秋風	出雲祭（山陰十四日）	卯花	翡翠（カハセミ）				
小滿（二十一日前後）	神御衣祭（カムミソマツリセ全）	うつさの花 箱根卯木	行々子				
蠶起食桑 紅花榮ゆ	彌彦祭（越後全）	卯の花雪 卯花月夜	よーー切 吉原雀				
麥秋至る	加茂祭（山城十五日）	岩藤	夏野の鹿				
梅天	葵祭、加茂葵 葵車、口彩葛	原朴花（ハハノハナ）	鹿の袋角				
*卯花くたし	葵葛、二葉蓴 諸葛、諸葉蓴	要の花	蝙蝠				
				竹の子漬			
				初松魚（ハツカツオ）			
				生節（ブシ）			

宗教	植物	動物
富士の雪解	青木の花	
日影の糸 御形 日レミア	桐の花	かはほり 蚊くひ鳥
戸隱祭 信濃 十五日	羽蟻 アリ	
波上祭 琉球 十七日	藪椿 鼠もちの花	枝蛙
吉田神社祭 三十日	櫻櫚の花	蓼食虫
稻荷祭 一日ヨリ八日	柿の花	蜘の子
松尾私祭 二日	千日紅	鼬の蛹
今宮祭 五日	白丁花	
灌佛會 *旧四月八日	若根	鰹釣
佛生會、浴佛 五香水、甘水	薔薇 リウ 茨の花 茨牡丹	
花御堂、佛の產湯 龍華會	長春、ばらの花 野薔薇、牛蒡	蟇 カサメ の子
		鱚 キス
		葵蝶 アツヒカレイ

*四〇頁參照

○丁班魚淡水に生する小魚にして全身一寸に足らず首平たく目高く出つ田の池などに群遊す小兒捕へ畜ひて玩弄す

○蟹ひしこ蟹を京て鹽に藏し食ふ時は酒醋又は醬油等に浸して用ゆ佳品なり

（三五頁）

○櫻餅葛を薄く延へ餡を入れて饅頭とし櫻の葉を以て包みたるもの櫻花の香尚馥郁たり

○水玉玻璃にて造り中に水を充て透明なる車珠玉の如し女兒の簪とし又は種々なる裝飾に用ゆ見るからに涼し

宗教	植物	動物
廿茶もらひ やうか日	橘類の花	文鰩魚 トビウオ
天頭花	蓏 橘 ハナタチバナ 藤橘、とこよ花	
氷川祭 ヒカハ 十日	花柚、橙の花 枳殼花、柑子花	
日吉祭 坂本 十四日	金柑花、九年母 雲州橘の花	
山王祭	岩梨	
東寺供養 十六日	覆盆子 イチゴ 砂いちご	
梅宮祭 仝	木市子、柳市子 桑市子、蛇市子	
和歌祭 十七日	鷄の實 ウス	
御靈祭 京都 十八日	筍 タケノコ たかんな たかうな	
筑摩祭	玉卷葛	

○八十八夜立春より數へて八十八夜立夏の前にて春の終なり是より霜なければ綿蒔にかゝるなり

○水下關雛林にして暗き心なり万葉には木晩（コノクレ）と續みたるあり

○余花春に遲れて獨咲くも又憐氣に見ゆ山深ければ夏さへ知らざりけん

○若葉の花所說種々なりされども新緑花に勝る謂ならん

○盤箱盞を其上に飼ひて繭をせしむる器なり

鍋まつり	玉巻芭蕉	
貴船神事	美人蕉	
虎杖競（	芍藥（宰相殿子）	
言問祭（二十八日）	牡丹（富貴）	
山崎祭（日使）	ぼうたん（名とり）	
水屋能（春日）	深見（二十日）	
龍田祭（太宰府）	葵（立葵・小葵・かちち葵）	
戸明（太宰府）	罌粟花（阿片採取）	
碧田祭	燕子花（カキツバタ）	
淺間登山	かほよ花（花の君）	

（三七頁）

○○○○○卯花くたし此頃の雨を云へり恰も卯の花の咲滿つ頃なれは落花舞雪の趣を現出する故也

○○○○わくら葉わくらわと讀めり赤に黃にさま〳〵冥樹の病葉なり和歌には偶々と云へる意にて枕詞に用ゐたり

○○○螢囊子螢の幼兒を巣より捕へ來りて啼音の善き親螢の邊に置きて聲を習はすなり

○○○○○○閑古鳥蒜古鳥郭公の事ならんかと云ふ其聲かつこうと啼く

（三八頁）

○○○灌佛會周昭王二十四年四月八日釋迦生る今諸寺花を以て小堂を飾り小像を安置し甘茶の香水を灌く

○○○蝸の子後肢の扁平なる蟹にて食用に供するに最美味也

清水地主祭	*蓮のはゐ	
千團子（三井寺・旧四月十二日）	*紫羅傘（イチハツ・一八）	
當麻祭	著莪（シヤガ）	
練供養	胡蝶花	
花供（高野）	をとり艸	
平野祭（京都）	夏枯艸（うつほ艸）	
近江八幡祭	寶鐸艸	
杜本祭	茶挽艸	
手安天神詣	石蔀（いはのね）	
菅宮祭	美人艸	

○○○千團子鬼子母神一千子あり常に他の子を取て食ふ佛爲めに其一子を隠す母神大に悲む佛自他の愛を訓戒し母神悔ひて改むと人從是一千の團子之れに供すとそ三井寺祭事あり

○○○○蓮のはゐ蓮の根にて長きものは丈に餘る蔬となして食ふ

乾坤	宗教	植物	動物
久世祭		蓴嫩葉（アサガホリカヘ）	
向日明神祭		紫蘭 菰	
下谷祭（十一日）		風車	
嵯峨祭		隔の花	
土塔祭（天王寺）		蓋實（ナヅナノミ）べんべん草	
中山祭		手鞠の花	
泣祭（平安）		天蓼（タビタ）	
神祭		王孫花（ツチバリ）	
榊さす、息取柳とる、		額草の花	
堅田祭		羊蹄花（ギンギシノハナ 大黄しのね）	

○水の様氷室の氷の厚薄を瓦石を以て其量を造り之れを奏せり（四頁）

○水祝新婦を褒るあちは朋友其家に乗り水を桶に汲みて大に其人に灌く祝の義なりとかや

○祐煎賣昔は元日家内に撒きたる事あり之を賣る者徘徊せり今尚今宮の戎市に賣れり其遺意にや

○松囃子能樂家謡曲家等にて注連の内に催す會を謂ふ

○獨盆子蓮にて造り此内に神の供物を容れ門松に結ひ付けたり幸籠の意も同〜

○幸木北國にて女の腰を打つを云ひ又門松の根に立て、鬼打木とも云ふ

○粥杖漆樛木を以て造る長さ一尺二寸許り新婦の腰を打ては男子を生むといふ信濃飛彈邊にては御祝木とも稱す

乾坤	宗教	植物	動物
菅笠擔（スゲガサンデウ 炎祭）		樊噲草（ハンクワイサウ）	
三枝祭		慮陀草（ルダサウ）	
八瀬祭		麥秋（麥苅）	
山科祭		綿蒔	
當宗祭		芋植、胡荽蒔 豆植	
大津祭		薄荷摘	
		青蘭豆（ソラマメ）はしき豆	
		苣の臺（ヂサノタウ）山苣の花	
		麥門冬	
		鷹爪（レダ）	

○麥秋秋とは百穀成就の期を云ふ此月麥熟す（四三頁）

*四八頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
六月	貴船祭（山城）一日	若竹 今年竹	鶯音を入る	端午 旊五月五日	菖蒲湯 端午	菖蒲帷子 端午	菖蒲太刀 端午
酉五月 夏半、皐月	東照宮祭（下野）仝	未央柳	水鶏（クヒナ）	午節、菖蒲節、重午	菖蒲ぬく 仝	菖蒲浴衣 仝	飾兜 仝
雞賓、仲夏 盛夏、鶴月	丹生川上祭（大和）仝	映山紅（キリシマ）	羽抜鳥（ハヌケトリ）	菖蒲興	軒菖蒲、蓬草 あやめ草	楞衣（アツチコロモ） 仝	削掛兜 菖蒲兜
橘月 早苗月	札幌祭（石狩）十五日 仝	杜鵑花 皐月躑躅	鳥羽換る	菖蒲案（サウブツクエ）	永き根 あやめ引	逢衣 仝	五月人形 武者人形飾
梅色月 梅立月	日技祭（武蔵）仝	柘榴花	水鳥巣	献菖蒲	男節句 仝	粽（チマキ） 仝	薬王（クスダマ） 仝
さくも月 月みず月	八阪祭（山城）仝	栗の花	浮巣	蘭湯	馳狩（チラヒカリ）	芦粽、菰粽 笹粽、飾粽	五彩の糸 皐月玉
いついろ月	嚴島祭（安芸）十七日	合歓花（デムノハナ）	鴉浮巣（ニホ）	艾虎（ヨモギ）	獵夫（サツカ）	柏餅（カシハモチ） 仝	長命縷
芒種 六日節入	熱田祭（尾張）二十一日	櫛の花	鴨の子	艾人、蒲人	獸狩	菖蒲酒 仝	幟（ノボリ） 仝
螢蛍生す 腐蛍螢と成	住吉祭（摂津）三十日	楞花 雲見草	煩鷲（クロカモ）羽抜	楞葺（アツチフク）	火串（ホグシ）	撫子衣	蠅取（ハエトリ）
梅子黄む	住吉御田 十四日	梔子花（クチナシ）	去鳴鴨舌（ヌエノシタタツル）*	楞の佩（アツチオビモノ）	照射（トモシ）*	帷子絣（カタビラ）	蠅叩

*四八頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
竹植日 旊五月十三日	豐國神社祭（京都）二十日	南天の花	輕鳧の子（カルガモ）	*神水 旊五月五日	競馬（キソヒカリ）	維（スモノ）すかー	蚊袋
竹酔日	松本祭	栴檀の花	五位鷺	*守宮を塗（ヤモリ）	*競渡（ケイト）	薄羽織	螢籠
*藥の日 旊五月五日	宇治縣祭（五）日	爽竹桃	鹿の子	六日菖蒲	*鳧車（フシヤ）	晒布（サラシ）	田植笠
*富士野男	大津新宮祭	桑の實	初蟬	*虎か雨	虎の涙雨	生布、木平麻布、半さー	
*甲斐野鳥	上御靈祭（下）一日	生胡桃（ニワクルミ）	*蟬（セミ）*螟（メイ）	蛇衣を脱く	騎射 馬弓	植女（ウエノ）早少女	*印地打（インヂウチ）
入梅 十二日迄	山川祭（伊勢）旊五月三日	氣條桃（スバイモモ）	蛇衣を脱く	菖蒲	草合	羅漢漬（ラツキヨウツケル）	*辻か花
黴雨（ツユ）	鮎取の神事	楊梅（ヤマモモ）	蛆（ウジ）	騎射 馬弓	ボートレース	酢造	
梅の雨（バイウ）皐月雨	藤森祭（仝五）日	枇杷	蛭蟲（サシ）	百艸を鬪す	*蒼朮を燻る（ソウジユツフスブ）	新茄和（シンキアヘ）	
五月雨 さみたれ	生魂流鏑馬	杏子（アンズ）	鯨子	左近荒手使 旊五月三日		搩瓜（モミウリ）	
皐月闇	團扇まき 仝十九日	李（スモモ）	小鰺	右近荒手使 仝四日			

*五〇頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
皐月晴	室祭（全五日）	青梅（小梅 餅梅）	*麥藁蛸	左近眞手使（全五日）			
船風（シラヘ）	両社祭（近江 全二十三日）	青柚	はす	右近眞手使（全六日）			
黒はへ	大原志（オハラサシ 丹後 全二十八日）	天門冬花	さば鰒	加茂競馬（五日）			
白はへ（ユウ）	永觀堂大磐若（全十六日）	花菖蒲（ハナサウブ）	手長鰕釣（テナガエビツル）	鞍馬竹切（八日）			
夏至（二十二日頃後）	祇園神輿洗	花あやめ		五月鏡（サツキカガミ）			
詹菊有香 蜩始て啼く	水神祭（スイジン 隅田川 十五日）	朝菊		*有無の日（アリナシ）			
半夏生す	關祭	夏菊		*射粉團（フンダンライル 端午）			
半夏生（ハゲショウ）	曾我祭（武蔵）	*蟬花		滴粉團 水團、白團			
	富士垢離	梓の花（雷さ、げ）		神麹製す（シンキク）			
	山田御田扇	蓴菜の花（スナハ）		桃印符			

*五一頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
最勝講	大祓（三十日）	石竹	輪越祓、夕祓、御禊祓、夏祓	名越祓、形代、夏神樂、撫物	茅の輪、祓草、御祓川、菅蔵	麻葉流、川社、あらにこ祓	菰まくら
天南星	百合花（ユリノハナ）光草	早百合、姫百合、車百合、秋百合	博多百合、鹿の子百合、鬼百合	紫陽花（アヂサヰ）	麥唐無子（ナデシコ）袖漏艸	大和撫子 とこなつ	屈原祭（蛇車）
赤霧符	*混飩食ふ（コントン）	引折日（ヒヲリ）	*賑給（シンキウ）	節折（ヨヲリ）（三十日）			

							蟬丸祭（藍五月十三日 詩仙堂）
							丈山忌（全二十三日）
							紅の花（末摘花）
							下毛草（シモツケ 山下毛 下毛）

乾坤宗教　植物　動物

業平忌　全二十八日

鐵線花（テツセン）
朝露艸
苔の花
蚊屋釣草（カヤツリクサ）
鋸艸
石菖（岩あやめ）
藪菖蒲
玉簪艸（ギボシ）
墜栗花（ツイリ）
萱艸花（クワンソウ）

（四四頁）

去鵜鷀（ウトウ）古此日此鳥の舌尖を除けは人言と同〜

火串照射猟人火を焚さて山に入る鹿其火を望み近く集るを猟す

（四五頁）

藥の日此日競ふて藥艸を採取〜陰乾となし〜て金瘡藥とす

富士野男富士雪解の頃人の形容空に現る、事あり農民此時を以て田を植ゆ野鳥も同〜

蝦蟆公晏子に天下極めて細小なるものを問ふ對て曰く東海に蟲あり蚊の睫に巣ふ漁者命〜て蟭螟と云ふと

神水今日午時雨降らは竹節の中に必す神水あり獺の肝を以て丸となし藥と成すへ〜

守宮を塗る蜥蜴を粉に〜て朱に混へ此日婦女の腕に塗る若〜男子と契らは其色剝脫すと云ふ唐朝の故事也

乾坤宗教　植物　動物

歡艸花
忘艸花

草石蠶（チヨロギ）
蛇床子（ヤブシラミ）
車軸草
猿とり花
覇王樹花（シヤボテン）
芭蕉の花
すへり莧（ヒユ）
鴨足草花（ユキノシタノハナ）
金錢花

虎か雨陰暦五月二十八日雨降るを云ふ昔此日大國の虎貸我祐成と別れ〜より其涙雨といへり傳て云ふ女英娵王に離る、を愁ひて湘浦の竹も涙に染て其跡斑文ありと

競渡屈原汨羅に死するを人々舟を出〜て救ひ〜に由る後全く戯とせり唐人長崎に來りて此遊あり各自飛龍〜〜と呼へり鳧車水馬同〜

印地打兒童柳を以て大小の刀を造り菖蒲太刀と云ひ相鬪ふ遊戯なり

蒼北燻る淫雨幾日屋中器物濕氣を含む其之れを燻らせは濕潤の氣を拂ひ爽快なり

辻か花紅緋の雌子とも白雌子とも二論ありそは兎まれ小兒雌子を着て徘徊する可憐の狀をいふなる〜

植物	動物
金盞花	
金銀花	
忍冬の花 すいかつら	
酢漿草花（カタバミノハナ）	
すいも草	
浮草（ツキクサ）の花	
菱の花 藻の花	
川骨（カウホネ）	
眞菰苗	
花かつみ	

（四六頁）
蟬花地蟲蟬と化す化し得さるものは地中より細長なる菌艸の如きもの生し二三日にして花の如き者咲く其根を掘れは蟬の形ありと傳ふ

麥蕎蛸此頃蛸を捕る事多く衆人亦食する事夥し麥蕎は時候なり

有無の日村上帝の國忌なり昔此日至急の事なくは政事無しあらは平日の通りなり

射粉團唐の宮中端午に粉團を作り金盤の中に容れ小弓を以て射さしめ中りたるものは食ふ滑膩にして甚た射難し都市火に行はる

植物	動物
藻を苗（藻苗舟）	
蓬苗	
藥草苗（藥艸拔）	
十藥	
田植	
早苗、玉苗 若苗、早乙女	
田歌、田植歌 早苗とる、	
粟蒔	
稗蒔、きび蒔 胡麻蒔、	
早松茸（サマツタケ）	

（四七頁）
混飩食ふ邪氣を壓すと大和本草に見はたり

眼給天武天皇九年冬十月貧窮の僧俗に米錢を與へて眼しを玉（り）より始まる

宗教	植物	動物
	瓜の花	
	胡瓜（ウリ）	
	越瓜（ウリ）早瓜 あさ瓜	
	茄子（ナス）	
	薤（ラッキョウ）	
	荒布苅（アラメカリ）	
	和布苅（ワカメカリ）	
	蔓豆引（ソラマメヒキ）豌豆引	

○道饗祭（ミチアヘノマツリ）疫神を京城に入れじとて和邇（ワニ）、會坂（アフサカ）、大枝（オホエ）、山崎の境（行き道に饗し止むる祭なり

○嘉通とは嘉定通寶の略稱にして勝の字に通ひ武家式車の一也一說に揚弓に負けたる者嘉定錢拾六文を出し食物を求めて速衆に振舞ふといひ又は嘉通十六文にて物を買ひ別ちて食へは福ありなと傳ふ

宗教	植物	動物	公故人事	衣食器財
七月	建勳祭（山城）	百日紅（猿すべり）	日御碕祭（出雲）	富士市
蒼六月、季夏、林鐘、涼暮月	出羽祭（羽前）	氷室花（氷室櫻）	氷室（ヒムロ）蒼六月十一日	土用干
九夏、蟬羽月、朔月、常夏月	熱田祭（陸前）	凌霄花（ノウセン）	冷水召す 氷のおもの	むし干 蟲はらい
且月、風待月、晩夏、水無月	湊川祭（摂津）	青田	氷室の雪 氷室渡る	雨乞
陽冰、鳴神月	出羽祭（羽前）	田草取（タノクサトリ）	蟬の諸聲	雨斷る
小暑（七日前後）	月山祭（全）	木草のいきれ	空蟬	井さらへ
溫風至る 鷹乃學習	湯殿山祭（全）	葎茂る（葎花）	蟬のもぬけ	井戸替 さらへ井
茉莉來賓	阿蘇祭（肥後）	櫟の花（イチ）	夏蟲	撒水 水掛合
百合蝶と化	愛染祭（一日）	杓杞の花（ノコ）	夏の蟲	祭祭基
溫風（ウン フウ）	住吉神輿洗（蒼六月十四日）	楮の花（カウゾ）	蝗（ヒトリムシ）	船遊

衣食器財	
飯笥	腹あて
簞（タカムシロ）	掛香
水からくり	蒸衣香
水鐵砲	夏生の糸（ナツコ）
飾氷（カザリニホリ）	夏引の糸 苧
電氣扇	からむし
涼籍（スヽキカンザシ）	振舞水（フルマヒ）
抱籠	一夜酒
竹婦人 竹奴	冷酒
脚馬 かご枕	麻地酒

宗教	植物	動物	公故人事	衣食器財
御體御占（蒼六月十一日）	田草取（タノクサトリ）	蟬の諸聲	掛鯛おろす	道饗祭（ミチアヘノマツリ）* 全三十日
嘉通（ツウ）*	櫟の花（イチ）	巣廻し	氷室の雪 氷室渡る	雨乞
嘉定錢 嘉定食	杓杞の花（ノコ）	鷹羽を習ふ	冷水召す 氷のおもの	座頭の納涼
韮根食（ニラネクフ）	楮の花（カウゾ）	鷹（タカ）	氷室（ヒムロ）	蒼六月十一日

*五七頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
日盛	住吉御湯	蓮 紅蓮 白蓮	火に入る蟲 身を焦す蟲	忌日御飯	瀑浴	冷温飩	網船
炎天	鉾兒祇園參 日	花はちす はちす	毛蟲	一夜酒供	水泳	冷蕎麥	四手網
あつさ	鉾 閻 六日	蓮の實	蛸蜥	*雷鳴陣	海水浴	冷素麺	持網
暑さ日	祇園雷山 十六日	睡蓮 びつゝ 蜻	蟬	神今食	夏瘦	冷豆腐	雛
極暑	祇園鉾 下の卯 十七日	澤瀉	殘蠅	解齋御粥	夏ぶし	砂糖水	
三伏	長刀鉾、函谷鉾 月鉾、鶏鉾、船鉾	長根艸 太藺	狗蠅	施米	霍乱	アイスクリーム	
天明節	菊水鉾、放下鉾 岩戸鉾、傘鉾	菅苗	蛸蠅	合祭 建國祭 四日	あせぼ	氷菓子	
溽暑	孟宗山、与出山 郭巨山、琴引山	蘭苗 蒲の穂	金龜子	佛國共和祭 十四日	杏需散	心太	
雲の峯	蓬郷山、白髮天 太子山、木賊苗	藍苗 いちひ 苗	螻		三味湯	ところてん	
青東風	芦苗山、山伏山 花盛人、天神山	麻 麻苗 苗	蝨		枇杷葉湯	葛水	

*五七頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
青嵐	祇園鉾 上の卯 二十四日	鴈皮	鯖釣				
風薰	鯉山、橋辨慶 黒主山、惡候山	山茶搗	鰹				
白雨	行者山、鈴鹿山 風神山、觀音山	綿の花	海月取				
夕立 ゆだち	船鉾	竹皮脱く					
川開	雩宮參	木茸取					
泉	夏祭	昆布苗					
泉水、滝殿 泉殿、	蒲團太鼓	虎杖の花					
遣水	枕太鼓	時計艸					
清水	山車	日向葵 日車 日廻					
清水掬ふ 清水浚む	座摩祭 二十二日	鷺草					
				*清潔法	切麥		
				夏煤掃祭掃除	水の子		
				避暑	水飯 洗飯		
				納涼	蓮飯		
				納涼床 納涼舟	道明寺挽飯		
				夕すゝみ 門すゝみ	糒 挽飯		
				庭涼み 涼しき	醋		
				樹つく	甘酒		
					夏切茶		
					*氷餅		

植物	動物
したゝる	難波祭 二十一日
土用 二十一日	天滿御祓 二十五日
*土用丑	富士登山
暑中休暇 十日ヨリ	富士詣 富士行者
*苦潮 シホ	六月會 歌山
大暑 二十三日前後	高雄蟲拂
桐始結花 土潤溽暑	水無月能
大雨時至	明智風呂 妙心寺
露すゝし	妙音講
夏暮る	羽黑祭 羽前
	赤草山ほゝづき
	虎の尾
	風蘭
	麒麟草
	釣鐘草
	檜扇 射干 ヒアフギ 烏扇
	瓠の花
	鼓子花 ヒルカホ
	夕顏
	糸瓜の花 ヘチマ
奈良漬る	
梅漬る 干梅 漬梅	
赤芋	
干瓢剝 新干瓢	
納豆仕込	
醬造 ヒシホ 醬油造	
鶏冠海苔 トサカノリ	
莧 ヒユ	
沖鱠 オキナマス せゝ鱠	
皮鯨 おばけ	

植物	動物
夏過て夏深さ	
夏の別 夏の限	吉田花火
秋近さ 秋隣る	竹生島祭
秋を待 來ぬ秋	橋立祭
	博多祭
	嚴島管絃祭 旧六月十六日
	閻魔祭 東京 十六日
	伊勢出家祭
	相國寺懺法
	三井寺札燒
	津島祭 尾張
	葛の花
	獨活の花 ウド
	早桃 サモヽ
	林檎 リンゴ
	大蒜根 ニンニクノネ おほびる
	茗荷 メウガ
	紫蘇
	青酸漿 ブチホヽヅキ
	青蕃椒 アヲトウカラシ
	瓜

○雷鳴陣大將以下弓を帶ひて庭上に立ち雷鳴盛なる時は陣を分て後殿に至り防衛す又雷鳴壺と云ふ（五四頁）

○清潔法惡病流行の防禦策として一區劃の人家日を定めて掃清をなす夏祭禮以前に行ふ

○氷餅宮中にては氷室を召させらるゝより民間搗餅を代用し夏病に冒されざるを希ふ（五五頁）

○土用丑土用の日饅を食ふ風習あり

○苦潮暑氣に逢ふて海水苦くなり鱗族の斃るゝ者多し（五六頁）

乾坤	宗教	植物	動物
	小蠅（サバヘ）なす神	阿古陀瓜、白梵天瓜、	
	住吉の踊	眞桑瓜、姫瓜、金瓜、銀瓜	
	芦神輿	乾瓜、青瓜、鞭瓜、永瓜	
	志度寺祭	隱元豆	
	愛宕千日參	緑豆（ブン・トウ）	
	石尊參（相州大山）	小角豆（サヽゲ）	
	住吉南祭（三十一日）	青さゝげ、十八さゝげ	
	唐崎祭	神馬藻（シンバサウ）	
	季吟忌（旧六月十六日）	なのりそ、ほたわら	

○秋は略八月八日の立秋より處暑白露秋分寒露霜降を經て十一月七日の立冬に至る約九十一日間を云ふ

○秋の聲松に吹く風もの〻聲なと自然に淋〻く詫〻きを云ふ

○秋の宮皇后宮を稱し奉る也

○律の調秋の聲に同じ淋〻きは此調子なり

乾坤	宗教	植物	動物
*秋		木の實	鶉（ウツラ）、片鶉、鶉床
龍田姫		鳥（ツタ）	百舌鳥（モズ）鳴
*秋の聲		鳥紅葉	鳴の回、眼を縫鳴
秋の水		野菊	鳴の早蕨、鳴の早蕨
秋風		草の花	鵙（ばせを）鳴、〃
秋夕		色草、千艸花、百くさの花	川原〃鳴、鳴の羽掻
秋の夕暮、秋のくれ		草の實	百羽がさ
月待		眞葛（マクス）、葛の葉	鵂（ハイタカ）
月		葛かづら、野邊はう葛	兄鷂（エタカ）
月代、水輪、水鏡、玄兎		湯（スヽキ）、糸薄、麗羽薄	若鹿、あら鹿、小鹿、鶴鹿

公故	人事	衣食	器用
*秋の宮			
千秋樂	身にしむ	鶉衣（ウツラコロモ）	田の庵
	*律の調	裂鮨（サキナマス）	案山子（カヽシ）
		柿羊羹（カキヤウカン）	烏おどし
			添水（ソフヅ）
			鳴子（ナルコ）
			鳴竿（ナルサヲ）
			引板（ヒタ）
			鶉籠（ウツラカゴ）
			鮎魚簗（アユヤナ）
			鰻魚簗（ウナギヤナ）

乾坤	宗教	植物	動物
銀盤、月の宿 嫦娥、月の雪		篠すゝき 十寸穂の薄	小隼
嫦娥、月の氷 金波、月の桂		しのふ草	撫鷹
玉兎、孟の影 桂男、孟の光		芭蕉	青鷹
桂影、月の都 暁月、弓張月		荻 荻の聲 荻の葉 をぎ	綱掛鷹 鷹打
*有明、月の弓 晨明、三日月		さゝれ荻 荻の上風	秋の狩場
上弦、上り月 下弦、下り月		茅 萱 菅草	鹿 狩庭 皮
月落、さやけき月		小萱、高萱 かやか下軒	鹿 小男鹿 紅葉鳥
星月夜		綿桃吹 綿取	妻恋鹿、錦鳥 鹿笛、〜〜垣
二十三夜月		弁慶艸	すかる
眞夜中月		犬子艸	野猪

○○有明月は尚有なから夜の明け行くを云ふ故に陰暦十五日以後の月たるへし

乾坤	宗教	植物	動物
霧		若烟草 菅艸	燒帛
霧の羅 霧の海		酸漿	鎌帛
霧の雫 川霧		蕃椒	蟲虫の聲
霧の花 霧の雨		天井まもり 八つなり	虫の音 蟲籠
霧の下道 霧の香		のこぎり 鷹の爪	蚯蚓鳴
霧立人		薑	蓑蟲なく
		芋	父恋〜と啼 父よと啼く
		琉球芋	我から啼
		薯蕷	芋むし
		紫芋 小芋	九萬疋

乾坤										
宗教										
植物	からいも [illegible]	薩摩芋	平芋(ツチイモ)	南瓜 たうなす	かぼちゃ ぼうぶら	冬瓜(トウグワ) かもうり	糸瓜(ヘチマ)	ぬかご	牛蒡引	
動物	鱸(スヾキ) 川鱸	小鰯	いわし引 いわし雲	沙魚(ハゼ) 沙魚釣	雀鰄(エツサイ)	鱰(シイラ) 勒魚	撥尾魚(イナ)	江鮒 小さらし	洲はしり	

○○○枝ばひ八月に捕る鷹を云ふ

○○○野され山に在りて自ら羽毛替り年經たる鷹也

○○鳩吹獵師の鹿を呼び又は合圖をなすに掌を兩つ合せて笛の音を出す

○○花火夏月河遊の遊興なり俳諧に秋季とする所謂未だ詳ならす

○○相撲は柏原天皇の時より始まり諸國に相撲人を召す之を部(コト)領使(リツルヒ)と云ふ後民間に行はれ宮相撲童相撲辻相撲等あり

○○○中元贈物は昔精飯と刺鯖を添ゐ相贈答したるも今は種々の物を贈る事となれり

○○蓮飯荷葉を以て糯米飯を包み精飯といふ常のはす飯とは別也

乾坤	八月	舊七月、早秋、肖秋、湘月	商節、上秋、孟商、流火	新秋、[illegible]、爽節、孟秋	蘭月、初秋、肇秋、蘭秋	素秋、秋初、涼月、夷則月	初月、盆秋、ふづき、文月	七夜月、文開き月	女郎花月、七夕月	めであひ月、あきは月
宗教	氷川祭（武藏 一日）	下諏訪祭（信濃 仝）	八代祭（肥後 三日）	北野祭（山城 四日）	海神祭（對馬 五日）	安房祭（[illegible] 十日）	大鳥祭（和泉 十三日）	函館祭（渡島 十五日）	箱崎祭（筑前 仝）	鹿兒島祭（大隅 仝）
植物	眞弓	萩	小萩、貝萩	白萩、鹿鳴艸	いとこ萩、ふるに艸	萩の殿、萩の戸	桐、桐一葉、桐葉落	一葉、一葉舟	柳散る	楓(カエデ)、青楓
動物	初鷹狩	荒鷹	初鳥狩	*枝ばひ	鷹塒出	鷹山別	鷹山に歸る	*野され	鳥屋勝(トヤマサリ)	*鳩吹
公故	東宮御誕辰（三十一日）	七夕（舊七月七日）	たなばた	硯洗	机洗	大の川	銀河、鵲の橋、星河、妻迎舟	としの渡、紅葉の橋	七箇の舟、百箇の舟	織姫
人事	*花火	蟲賣	*相撲(スマフ)	相撲取、辻角力	宮相撲、童角力	踊	衝突入り(ツツトイリ)	田の蟲送る	七夕笹賣	*中元贈物
衣食	萩衣、萩襲	梶衣	葱衣(シノブ)	一葉衣	踊浴衣、踊帷子	新綿	*蓮の飯	精しらむし飯	あつ麥	ぬる麥
器財	扇置	捨扇	團扇置	捨團扇	西瓜提灯	岐阜提灯	鎌倉行燈	錦畫燈籠	走馬燈(マハリトウロウ)	玻璃燈

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
立秋（八月前後）	三島祭（伊豆十六日）	櫨（ハジ）	秋蟬	百千姫 蒸り姫	生身魂	燒米	花火線香
涼風至る 寒蟬鳴く	鎌倉祭（相州二十日）	柞（ソ）	蜩（グラシ）かな〜〜蟬	梶の葉姫 秋さり姫	朝茶の湯	刺鯖	笹たてる（七夕）
霧霧昇騰	土佐祭（上佐二十五日）	楸（ヒサギ）	寒蟬、〜つくつぼうし〜	女たなばた ともし〜妻	曉の茶會		
秋たつ	藤島祭（筑前）	かつてこぶち 濱ひさぎ	蜻蛉（トンボ）	糸をり姫 たなつ姫			
今朝の秋	太宰府祭（筑前）	木槿（ムクゲ）	やんま 鬼とんぼ	はたつ姫 あさかほ姫			
今日の秋	住吉北祭（一日）	頼桐（タウキリ）	赤とんぼ 秋津蜻	牽牛（ケンギウ）男 七夕			
初秋	吉原燈籠	秋七草	鈴蟲	二星			
來る秋	墓參（墓詣菊）	女郎花（ミナヘシ）	松蟲	星合、星の契 星夕、星手向			
秋の初風	千日參參（六道 旧七月九日）	男郎花（オトコヘシ）	人まつむし〜	星祭			
早秋	横の〜ん寶 枝ほ〜つき	桔梗（キキヤウ）きちかう	きり〜〜す	乞巧奠 乞巧針			

*六四 参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
新涼	盂蘭盆（ウラボン盆會 旧七月十五日）	舜（アサガホ）		梶の葉			
初て涼し	盆の市、蚊市 手向市、扇幹	朝顔會	蟲斯 機織蟲	梶の歌 露とり蚊			
殘暑	寶、をがら寶 白むし寶	燕尾香（蘭蚊）	蟋蟀（コホロギ）	秋さり衣			
餞暑（センショ）	魂祭（仝）	澤桔梗	いとど、籠馬 油胡蘆、	星のかゝ衣			
中元（旧七月十五日）*	聖靈棚、殘棚 聖靈祭、經棚	秋海棠	螽蟲（クツワムシ）	願の糸			
不知火（シラヌヒ）	盆の手向	蘭（フジ）ちに あちゝさ	草木の蟲	庭の立琴			
稻妻	技豆、みそ萩 根芋、蓮の実	旋覆花（チクルマ）	螽蟲（キリギリス）	天の名蚊			
露 袖の露 露の玉	茄子、水の米 青瓜、青蕎麥	仙翁花 紅梅蚊	いぼじり たうらう	七夕鞦			
白露、うは露 朝露、夕つゆ	青柿、甜干瓢 甜菜雞、あり	藥師蚊	螽蟲（ハタ〜〜）	飛鳥井鞦（アスカイ）			
ひやゝか	のみ、麻先箸 桃、技さゝげ	鼠尾蚊（ミソハギ）	馬追虫	楸葉を載く（ヒサギノハ）			

*六八頁参照

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
處暑 二十三日節後	迎火 送火	數珠玉 薏苡	蕉蟲	相撲使 部領			
既鳥を祭る 天地始て肅る	揚燈籠	星卿 殺精卿	茶立虫	内裏御燈籠			
穀物乃實る	切子燈籠 廻り燈籠	すまひ卿	稲蟲 蝗	水馬演習			
洗車雨	高燈籠 折出燈籠	鳳仙花	殘る螢	獨立祭 西洞 十五日			
酒泉雨	大文字火 京都 二十四日	つまくれなゐ	秋の螢				
富士初雪	船火、鳥居火 妙法火	著花	殘る蚊				
	施餓鬼	解夏卿	殘る蠅				
	川施餓鬼 經木流 地藏流	盆母卿	秋蠶				
	地藏盆會 地藏 七月二十四日	玉みづき					
	流燈會	觀音卿					

※六八頁參看

乾坤	宗教	植物	動物
	黃檗水燈會	五味子	
	焰魔參 七華巡	蓮實飛ふ	
	摩尼踊 高野	稲の花	
	つんつく踊 伊勢	早稲	
	題目踊 松ヶ崎	早田の稲葉	
	燈籠踊 紫合 長谷	室の早稲	
	掛待 門茶	葡萄ぢから	
	鬼の洞念佛 八瀬	蕨 山蒲	
	六齋念佛	桃	
	文珠會	棗	

○○○生身魂此月公武両家會親を饗し生身魂或は生盃と稱す民間にも做ふものあり (六七頁)

○○刺鯖千鯖の頭（頭を刺すか故に名あり

中山星祭	七月九日	西瓜（スイカ）
薪寺虫干		青瓢笠（アヲフクベ）
三井寺女詣		陰瓜（アコタ）
ひや瓜祭	六月	芋の葉露
夏書納	夏解	
送行		
數法庭	六月（スハフテイ）	
部靈祭	盆（フリノタマ）	
土寺田樂舞	十三日	
北野御手水		

○中元陰暦正月十五日を上元と〜仝十月十五日を下元と〜今日を中元とす（六五頁）

○魂祭佛家各々霊棚を設け祖先の霊を祭る

○洗車雨陰暦七月六日の雨を云ひ七日の雨を洒源雨と云ふ二星逢はずと傳ふ（六六頁）

安居頭	八月（アンゴノトウ）	
佐倉祭	二日	
神田祭	十五日	
御靈御出		
御狩山祭		
穂屋作る		
逆峯入		
宗祇忌	七月十八日	
文覺忌	仝二十日	

○捻見秋の年貢を定むる爲め縣吏先つて田地立毛の間を巡見して豐凶を見る（七〇頁）

○給行器陰暦八月一日京洛家々の乳母給行器一双を書て保育せ〜女兒に送る中に生柿白絲餅等を入れたり綵雀も贈物の一なり

*六九頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食住	器財
九月	秋季皇靈祭 二十四日	野山色	鴈	司召	褻	桔梗衣	*給行器
舊八月、南呂 仲秋、清秋	鹿島祭 常陸 一日	字治の花園	鴈金、鴈字 かり、鴈陣	駒曳	衣打、擣衣 衣ーで打	女郎花衣	*綵雀
壯月、桂秋 仲商、桂月	岩木山祭 陸奥 全	花壇	天津鴈、白鴈 田面鴈、海鴈	駒迎	ーころ打 あやまさ	闌衣	秋の蜥
葉月、竹の春 鴈來月	氣比祭 越前 四日	初紅葉 薄紅葉	初鴈 渡る鴈 來る鴈	望月の駒 霧原の駒	*撿見 毛見	新絹	下魚簗
燕去月 秋風月	大洗磯前祭 常陸 九日	八朔梅	菱喰	上野の駒 信濃の駒	鴈風呂	新酒	觀月列車
月見月 紅染月	生國魂祭 摂津 全	名の木散	色鳥	武蔵の駒 引分駒	番綿 番船	中汲、古酒 たれ口	
木染月 くさつ月	住吉祭 壹岐 全	柘榴實	稲負鳥		茸狩	新走	
さゝはなさ月	都々古別祭 陸奥城 十一日	木犀花 桂花	燕歸		松露拾	醁醁濁醪	
八朔 舊八月一日	玉前祭 上總 十三日	銀杏	いぬるゝ鳥			涪	零餘子飯
白露 八日節候	竈山祭 紀伊 全	梅嫌	小鳥渡る				

*七二頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食住	器財
草露白し 鶺鴒啼く	伊佐須美祭 陸奥 十五日	槐の花	わたり鳥 朝鳥渡る				鰯黒濱
玄鳥去る	男山祭 山城 全	杓杷の實	*三光鳥				茹菱
初潮	放生會	牡丹根分	日月星 鳥鳳				
初嵐	鶴岡祭 相模 全	芍藥根分	鶺鴒				
鴈渉	新田祭 武蔵 全	尾花 薄の穂 花薄	尾たゝき 石たゝき				
長夜	石上祭 大和 全	*花野	鵯				
秋社	田島祭 肥後 十六日	海荷	鶸				
雁風	豐國祭 山城 十八日	芙蓉 木芙蓉 草芙蓉	鶸				
野分 暴風	霧島祭 大隅 十九日	常山花	椋鳥				
待宵	生島足島祭 信濃 全	金剛丗 駒つなぎ	山雀				

九月

待宵小望月	駒形祭（陸中全）	縷紅艸	四十雀（シジフガラ）	鵯子鳥花鶏（アトリ）
名月	寒川祭（相模二十日）	白粉花	頰白鳥（ホシロ）	
明月、月代、初月、新月	白峯祭（山城二十一日）	花紫	五十雀	
望月、十五夜、もちの影	井伊谷祭（遠江二十二日）	鳥頭（トリカブト）	小陵鳥（コカラ）	
半名月、半月、今宵	玉祖祭（豆州二十五日）	刺萱	連雀	
今日の月、名高き月	水無祭（摂州全）	紫菀（シオン）	繡眼（ノジロ）	
良夜	國懸祭（紀伊二十六日）	一を鬼のしこ艸に	月白合	
月・見	日前祭（全）	露草（月草、青花）	啄木鳥（キツツキ）	
既望（イサヨヒ）十六夜	吉野祭（大和二十七日）	龍膽（リンダウ）（笹龍膽、山龍膽、九谷にやみ艸）	菊戴（キクイタダキ）	
立待十七夜	英彦山祭（豐前二十八日）			

（七一頁）

○花野秋草の花の色様々に咲出てたる野邊也

○三光鳥背は紺碧色に赤を帶ひ腹白く烏冠あり尾の長さ一尺半巣は蝟の如く前より入り後に出る様に造る啼聲ヒッキホシと聞ゆ

九月

居待十八夜	神泉苑祭	黄蜀葵花（トロロアフヒ）	鵯（シヤコ）鵠	
伏待十九夜	三村祭（堺）	鶏草	猿子鳥（マシコ）	
更待二十夜	堺天神祭	新蘿草（シンカリヤス）	瑠璃鳥	
二十日亥中月	白髭祭	水引の花	檀鳥（カシドリ）	
肌寒（ハダサム）	牛御前祭（ウシノゴゼ）十五日	三七の花	腹班鳥（ハラマダラ）	
やゝ寒	敏馬祭（ミルノ）	草藤	頰赤鳥（ホアカ）	
そゝろ寒	三津八幡祭	時鳥花	豆廻（マメハシ）	
うそ寒	志賀八幡祭	せんぶり花	鵐（ヒタキ）	
朝寒	宇佐宮祭	濱木綿花（ハマユフ）	鵲（ヒカラ）	
夜寒	礬田祭	虞美人艸	額鳥（ヌカトリ）	

○鵯鵠形倭鶏の雌に似て飛へは必す南す性潔僻にして寒を厭ふ散紅葉を脊に負ひて霜雪を凌く歌に上毛の紅と讃めり脊に出たる書あり

*六九頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
九月	秋季皇靈祭 二十四日	野山色	鴈	司召	褄	桔梗衣	*繪行器
舊八月、帝呂 仲秋、清秋	鹿島祭 常陸 一日	字治の花園	鴈金、鴈字 かり、鴈陣	駒曳	衣打、擣衣 衣ーで打	女郎花衣	*綵雀
壯月、桂秋 仲商、桂月	岩木山祭 陸奥 全	花壇	天津鴈、白鴈 田面鴈、海鴈	駒迎	ーころ打 あやまさ	蘭衣	秋の蜩
葉月、竹の春 鴈來月	氣比祭 越前 四日	初紅葉 薄紅葉	初鴈 渡る鴈 來る鴈	望月の駒 霧原の駒	*撿見 毛見	新絹	下魚簗
燕去月 秋風月	大洗磯前祭 常陸 九月	八朔梅	菱喰	上野の駒 信濃の駒	鴈風呂	新酒	觀月列車
月見月 紅染月	生國魂祭 摂津 全	名の木散	色鳥	武藏の駒 引分駒	番綿 番船	中汲、古酒 たれ口	
木染月 くさつ月	住吉祭 住吉 全	柘榴實	稲負鳥		茸狩	新走	
さ、はなさ月	都々古別祭 陸奥城 十一日	木犀花 桂花	燕歸		松露拾	醂醡	
八朔 舊八月一日	玉前祭 上總 十三日	銀杏	いぬる乙鳥			涪	零餘子飯
白露 八日節候	寵山祭 紀伊 全	梅嫌	小鳥渡る				

*七二頁参看

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
草露白ー 鶺鴒啼く	伊佐須美祭 岩代 十五日	槐の花	わたり鳥 朝鳥渡る				
攴鳥去る	男山祭 山城 全	杓杷の實	三光鳥 日月星鳥 鳳				鰯黒漬
初潮	放生會	牡丹根分					茹菱
初嵐	鶴岡祭 相模 全	芍藥根分	鶺鴒				
鴈渉	新田祭 武藏 全	尾花 薄の穂 花薄	尾たゝき 石たゝき				
長夜	石上祭 大和 全	*花野	鵯 ひよ				
秋社	田島祭 肥後 十六日	薄荷	鵺				
鮭風	豐國祭 山城 十八日	芙蓉 木芙蓉 草芙蓉	鶸				
野分 暴風	霧島祭 大隅 十九日	常山花	椋鳥				
待宵	生島足島祭 信濃 全	金剛艸 駒つなぎ	山雀				

待宵小望月	駒形祭 陸中	縷紅艸	四十雀 シジフガラ
名月	寒川祭 相模 二十日	白粉花	頬白鳥 ホシロ
明月、月代、初月、新月	白峯祭 山城 二十一日	花紫	五十雀
望月、十五夜、もちの夕	井伊谷祭 遠江 二十二日	鳥頭 トリカブト	小陵鳥 コカラ
半名月、今宵月	玉祖祭 肥後 二十五日	刈萱	連雀
今日の月、名高き月	水無祭 飛騨 仝	紫蕊 シチン	繡眼 メジロ
良夜	國懸祭 紀伊 二十六日	一を鬼のしこ艸に	月白合
月見 觀月	日前祭 仝 仝	露草 月草、寺花	啄木鳥 キツツキ
既望 イサヨヒ 十六夜	吉野祭 大和 二十七日	龍膽 リンダウ	菊戴 キクイタヽキ
立待 十七夜	英彦山祭 豐前 二十八日	笹龍膽、山龍膽、九谷にやみ艸	猶子鳥、花鶏 アトリ

（七一頁）

○花野秋草の花の色樣々に咲出てたる野遊也

○三光鳥背は紺碧色に赤を帶ひ腹白く烏冠あり尾の長さ一尺半巣は鞠の如く前より入り後に出る樣に造る啼聲ヒッキホシと聞ゆ

居待 十八夜	神泉苑祭	黄蜀葵花 トロロアフヒ	鵯 ヒヨドリ
伏待 十九夜	三村祭 堺	鶏草	猿子鳥 ヤシコ
更待 二十夜	堺天神祭	新蓋草 シンカリヤス	瑠璃鳥
二十日亥中月	白髭祭	水引の花	樫鳥 カシドリ
肌寒 ハダサム	牛御前祭 ウシンゴゼ 十五日	三七の花	腹班鳥 ヘウマダラ
やゝ寒	敏馬祭 ミルメ	草藤	頬赤鳥 ホアカ
そゝろ寒	三津八幡祭	時鳥花	豆廻 マメハシ
うそ寒	志賀八幡祭	せんぶり花	鵲 ヒタキ
朝寒	宇佐宮祭	濱木綿花 ハマユフ	鵠 ヒカラ
夜寒	譽田祭	虞美人艸	額鳥 ヌカトリ

○鵯鵠形倭鶏の雌に似て飛へは必す南す性潔癖にして寒を厭ふ散紅葉を脊に負ひて霜雪を凌く歌に上毛の紅と謂めり脊に出たる書あり

冷（スサマシ）	菖蒲皮祭	玉葛（タマカツラ）	いすか鳥
*二百十日	箱崎祭	車前子（オハコノミ）	鳴打
秋分 廿三日節後	野口念佛	曼球沙花（マンジュサケ）	青鷸（アヲシギ）あを
雷乃聲を收め蟄虫戸を閉ず	豐浦祭	ひと花	秋の蝶
水始て涸る	長門一宮祭	檀特花（ダンドク）	あぶれ蚊
*二百二十日	菅大臣祭	鬱金花（ウコンノハナ）	鉦（イナゴ）
蛇穴に入	桑名祭	やいと花	河鹿（カジカ）
社日 廿七日頃	西大寺會式	茗荷の花	落鮎
	御靈祭	漆の花	さび鮎
	秋の彼岸	藍の花（山藍の花）	太刀魚

○○○○二百十日立春より數へて二百十日なり此日概して風雨あり此時中稻の花盛にて農は之を損せん事を恐る○○○○二百二十日は晩稻の花盛也共に厄日とす

釋奠	蕑の花	秋刀魚（サンマ）	
太秦會式（ウヅマサ）	蕎麥の花	江鮭（アノウ）	
菩薩祭（ボサツマツリ） 長崎 八月十八日	鷄頭の花	鮭（サケ）	
ずいき祭 北野 二十五日	鴈來紅	はらゝ子	
宰府祭	葉鷄頭（かまつか）	鯉（ヒシコ）	
西院祭	敗荷（サヘレハス）		
なもて踊	菱の實取		
阿野津祭	蓼（タデ）の花 蓼の穗		
死活杖祭	馬蓼の花 犬蓼の花		
*貰ひ盆	蘆の花 蘆の穗		

○○○○貰ひ盆豐年の秋には此月も尚踊なと催す

宗教	植物	動物
鬼貫忌 六月二日	水葵（ミツアヒ あなぎ）	
太祇忌 仝九日	菅植	
松陰祭 仝十七日	藥掘	
定家忌 仝二十日	茼蒿の實 菊根掘	
	くら、引 たう藥引	
	茜（アカネ）の花 茜掘	
	胡麻刈	
	大根蒔	
	菜種蒔 芥子蒔	
	蜀黍蒔 中拔大根	

宗教	植物	動物
	籬豆（カキ マメ）	
	小菜（ツマミナ） 貝割菜 間引菜	
	竹を切る*	
	田刈、落穂 稲刈、稲干*	
	今年米、新米 田の色、稲垣	
	田色付、稲塚 秋の田、稲莚	
	山田守、稲舟 小田守、稲藁	
	稲の浪、新藁 稲こく、穂拍	
	中稲（ナカデ）	
	粟の穂 粟刈	

○竹を切木は七月竹は九月に切らは蟲の入る事なしと云ふ此月竹の奈の異名あり

○落穂豐年には稻餘りありて女なと心の儘に荻穂を拾うて自己か所得とす豐かなる樣なり

○稻莚稻刈に用うる莚なるへけれと刈たる稻を旅寢の莚と引敷くをもいふと也

乾坤	宗教	植物	動物
		栗奴（クロンボウ）	
		秫（モチアハ）狼尾艸（エノコアハ）	
		稗苅	
		黍（キビ）苅	
		蜀（タウ）黍（キビ）	
		玉蜀黍（タウモロコシ） 難波黍	
		種（タチ）瓢（フクベ）	
		澁柿 澁取 新澁	
		木瓜（ボケ）の實	
		夕顔の實	

（八〇頁）

色かへぬ松 他の木には紅葉黄葉と色つく中に屹然として常磐の緑長へなるを賞せり

熊栗棚 熊は克く樹を攀ち且栗を好む上りて梢に至り技を折りて並列し樹上に臥床を設く又一說に枝を穴に持歸りて冬籠の料とすともいふ

菊瓶 御前に之を置き茱萸袋を懸く

誓文拂 戎子講と共に十一月なれとも呉服商の賣出しとて此月に行ふ事多し九五頁參看

紅葉土器 菊の盃に對して斯かる稱あり

乾坤	宗教	植物	動物
		種茄子	
		松茸	
		岩茸、はつ茸 松露、しめぢ	
		柳茸、なめ茸 種茸、天狗茸	
		鼠茸、いくち 紅茸、平茸	
		烏（カラス）瓜 玉つさ	
		通（アケ）草（ビ）	
		茘（ツル）枝（レイシ）	
		なた豆	

（八一頁）

色見艸 紅葉の事なり

紅葉かつ散 は一說に又しては〳〵散る義なりと考ふへし

*七八頁参看

十月	神嘗祭 十七日	豐榮祭 一日	赤間祭 七日	丹生川上祭 八日	諏訪祭 全	田村祭 全	物部祭 九日	大神山祭 全	金刀比羅祭 十日	若狹彦祭 全
舊九月、晩秋、季秋、紅樹月	新松子	青松毬の實	*色かへぬ松	山粧	野山錦草の錦	紅葉	村紅葉櫻紅葉	梅紅葉楓紅葉	直弓紅葉柿紅葉	柞紅葉槻紅葉
菊秋、菊間月、菊月、菊月、菊秋、寢覺月	尾越鴨	鴉	鴈をとし	霜踏鹿	*熊栗棚	紅葉鮒				
無財、梢の秋、文月、紅葉月	雜	重陽	*重九、重陽宴、菊瓶、菜萸袋	菊花の宴、菊の節句	高に登る	十日菊	後日菊	蟲撰	肩掾鹿	不堪田奏
彩月、菊月、長月、紅秋	後の出代	後の雛	*晳文拂	戎され冬物賣出	海嬴廻	漆掻	綱代打	露海終航	栗祝	茹栗燒栗
消秋、小田苅月	九日小袖	紅葉衣	紅葉襲	菊襲	菊の酒	温酒	葡萄酒	栗祝		新蕎麥
寒露 八日前後	*紅葉土器	風爐の名殘	崩魚簗							
蟋蟀戸に在漢宮秋老ふ										
雀入海成蛤										
秋の色										

*七九頁参看

十三夜	梨木祭 全	海祭 十一日	高良祭 十三日	神御衣祭 十四日	酒列磯前祭 十五日	伊和祭 十五日	伊太祁曾祭 全	枚聞祭 全	吉備津祭 十八日	長田祭 全
後の名月、月の名殘	漆紅葉、白膠木紅葉	楢紅葉、杏紅葉	草紅葉、下紅葉	川の紅葉、水の紅葉	*色見艸	紅葉焚く	*紅葉かつ散	色ながら散	もみち踏む、紅葉つもる	椿の實
二夜月、豆名月										
秋の土用 廿一日頃										
霜降 廿三日前後										
小雨時に施、楓蔦黃はむ										
射獣を祭る										
秋霜										
露霜										

銃獵期に入 十五日	黃柿	烏柿	柚味噌	さや豆	とち餅	蠟子

十一月

露時雨	忌部祭（阿波十九日）	椎落椎（シヒ）拾ふ
露寒し	出石祭（但馬二十日）	椎柴（までば椎）
暮秋	二荒山祭（下野二十一日）	樫の實
行秋、秋惜む、秋別、秋暮て	出雲祭（丹波全）	新榧
秋湊、秋過て、冬待、秋の限	唐津山祭（下野二十五日）	櫟（イチヒ）
冬隣、秋名殘、冬近、暮の秋	宮崎祭（陸奥二十八日）	無花果（イチジク）
秋深さ、秋隈る	臺灣祭（臺灣全）	榛（ハシバミ）
	香椎祭（筑前二十九日）	椋の實
	神宮遙拜式（十七日）	木蘭子（ムクロジ）
秋祭禮		木思子（もくげんし）

十一月

	高臺寺忌（紀九月六日）	菩提樹子（ボダイジユ）
	桂宮相撲（全八日）	柾の實
	粟田舍利會（全）	柾（マサキ）柾葛 柾散
	五條天神祭（全九日）	榎の實（エノキ）
	金山祭（全）	梅檀の實（センダン）
	下鳥羽祭（全）	樫の實（トチ）
	生魂祭（全）	萬年青實（オモトノミ）
	御香宮祭（全）	だもの實
	貴船祭（全）	南天の實
	鞍馬祭（全）	桐油の實

（九〇頁）

氷の轄　水車などの氷りて動かさる車轄をうちーに似たり

あぢむら鴨（カモ）なり　夫木集西行の歌に閉ち初る氷をいかにいと

ふらんあぢむら渡る瀨田の入海

夜駒引　冬夜山中に獸を獵せんとて犬を牽きて山に入るなり

醍醐祭	漆の實
四宮祭 全	茱萸（ゾミ）
多武峯祭 全十二日	密柑
太秦祭	橙
牛祭	雲州橘
龍田祭 全十三日	金柑
御難餅 全	柑子
住吉相撲會 全	柚（ゆず）
寶の市	九年母
升買ふ	佛手柑

（九三頁）

○青女は青天の玉女霜雪を司る淮南子に青女乃ち出て、霜雪を降らすとあり

○神立風諸神出雲國大社へ集り給ふとて此月の風を〜かいふ

○鶯子啼今春生る所の雛鶯の初冬和暖の氣に感〜て啼立つ

○拜墳唐土にて陰暦十月一日貴賤とも祖先の墳墓を祭る

○女猪此月亥日餅を食へは万病を除くと云へり昔は貢献〜たる事あり

○燒樽を食ふとは酒の滓の焦〜たる如き物を食ふなり

○裝束此月三歳の兒の髪置と〜五歳は袴着九歳は帶解又紐直〜と稱〜氏神に參詣す其日の食膳には加那加志瓦を置き健康を祈る女子には五才被初十三才歯黑の儀あり式庶民に至る

○暦の頒布暦の出版は神宮司廳に於て專ら之を司る此月全國へ頒布す

白川祭 全	槇櫃實（クワリン）
布留祭 全十五日	平地木子（ヤマタチバナ）鼓柑
岩倉祭 全	馬勃（マルメロ）
河内一宮祭 全	枳殼（キコク）
小倉祭 全	柿 木練柿 御所柿
勸學會 全	筆柿 猿柿 澁柿 ころ柿
神田祭 全	熟柿
清明祭 全十六日	梨 古賀梨 軒妻梨
岡崎祭 全	青梨、水梨 木梨、山梨
北山祭 全十七日	けんぼ梨

綾織祭（全）	栗（いが栗 さゝ栗）
呉服祭（全十八日）	落栗 毛栗 國栗 栗 樓 熊栗 雖栗
婆娑祭（全三十日）	栃栗 剝栗 燒栗 出落栗 三度栗
八幡花頭（全）	豆引（小豆引）
城南神祭（全）	豌豆引 緑豆引
難波祭（二十一日）	菊（菊の着鉢 今日の菊）
座摩祭（二十二日）	白菊 黄菊 万菊 百菊 大菊 小菊
淀祭（旧九月廿二日）	翁草 菊合 菊瓶 承和菊 曾我菊
大原秋さし（全廿三日）	花の弟 乙女花 百夜草
*二十三夜待	破芭蕉

○二十三夜待勢至菩薩の縁日なれは月の出を菩薩の出現とゝて其昇るを待つ

天満流鏑馬（二十五日）	鵜上戸（ほろゝ）
逆髪祭（旧九月廿七日）	我亦紅（ワレモカヤ）
桂川御祓（全日七日）	仙蓼
津村祭（全）	蒟蒻花（コンニヤク）
鳴瀧祭（全廿八日）	佛甲草（イハレンゲ）
住吉神送（全三十日）	秋牡丹（キブチキク）
旅戎祭	小蓮花
一乗會（天王寺）	草牡丹
山口祭	皂角子（サイカチ）
例幣	*遅稲（晩稲オクテ）

○遅稲オソイネの約なりといふは非なちん古歌に『片岡の森の梢も色つきぬ早稲田のをゝね今や刈ちん』又『白露の晩稲のをゝね打靡き田中の井とに秋風ぞ吹く』恐くは小稲（サシネ）なるべゝ俊頼朝臣の『憂き身には山田のおゝね押ゝ籠めて世をひたすらに恨みわびぬる』とあれと同朝臣の『葛飾の早稲田のをゝねこきたれて』ともあれは假名遣の誤に非るか

十月

宗教	植物	動物
鹿谷祭	穭田（ヒツジタ）*干土生	
木幡祭	落水（オトシミツ）	
福王寺祭	枯野色（うら）枯	
宗忠祭 二十二日	枯草露	
引山 旧九月十日	薄散尾花 枯尾花	
*野々宮別	蘆穂綿	
伊勢御遷宮	瓢（ヒヨンノキ）樹	
去來忌 旧九月十日	新胡桃（シンクルミ）	
	水木（ミツキ）	
	蕎麥刈（ソバカリ）	

○野々宮別齊宮は昔は先つ山城嵯峨野に住み三年籠りて九月に伊勢へ遷らるゝ時參朝す天子御手つからゆゑのつきゝを齊宮の頭に挿し玉ふ別れの櫛と云ふ

○羊田菊田の跡に稻の株より嫩の生るを羊生といひ田を羊田と云ふ羊の髯の如く疎なるをいへり

○冬は略十一月七日の立冬より小雪大雪冬至小寒大寒を經て翌年二月四日の立春に至る約九十一日間を云ふ

○枥野鳶野とも書きて冬野なり一說には攝津の百濟野を云へりとそ

○ぬす立鳥案立にて鷹に恐れて艸木に匿れし鳥の密に立つなり

○ちから艸鷹鳥を捕へ片足にて草をつかみ飛立たせさるなり

冬

宗教	植物	動物
冬	冬木立	鷹車（タカハヤフサ）鷂（ハシダカ）
山眠	冬枯	大鷹（鴟鴞）兄鷹（ケウタカ）
短日	寒菊	弟鷹（ダイタカ）鵰（ノセ）
冬の雨	石蕗（ツハ）土莖花	雀鷹（スヾメタカ）角鷹（クマタカ）
寒夜	枯野	追鳥狩
寒空（サムソラ）	朽野（クダラノ）*	鳥號（トサケビ）
寒き朝 冬曉	藪卷	ぬす立鳥*
さむき	大根	鳥立を慕ふ
冷（ツメタキ）	蕪（カブラ）	をしへ艸
冱（サユル）	胡荽（ニンジン）	ちから艸*
		鷹狩
		鷹匠、鷹野 狩場、鷹犬
		冬籠（フユコモリ）
		冬搆（フユカマヘ）
		北窓閉
		賣炭翁 炭賣
		炭燒
		胼（ヒヾ） 胼藥
		皸（アカヾリ） 皸藥
		寒瘠（シモヤケ）
		外套（クワイタウ）
		二重廻し 吾妻コート
		手套（テブクロ）
		肩掛（カタカケ）
		湯婆（ユタンポ）
		温石（ウンジヤク）
		懷爐 灰
		助炭（ジヨタン）
		手爐（シユロ） 手焙
		埋火（ウツミビ）
		囲爐裡（イロリ）
		火鉢
		火桶 桐火桶
		頭巾（ヅキン） 丸頭巾 角頭巾
		冬服
		冬帽子
		おこそ頭巾 宗十郎頭巾
		綿ばう〜
		爐

乾坤宗教	植物	動物	公故人事衣食器財
鐘冴る	菫菜（クキナ）	鳥の落卿	水涕（ミツバナ）
月冴る	葱（チシヤ）	狩場の雉子	夜興引（ヨコヒキ）*
冬の月	ねぶか 一もじ	狩場の鳥	風領（エリマキ）巻首巻
月寒し		温鳥（ヌクノ）	足袋（タビ）
氷		鵰（ワシ）鷹	蒲團（フトンまる）
薄氷、薄らひ 厚氷、		鳥曇 鳥風 鳥雲	厚衾アツフスマ 小衾、被衾
氷の轄（クサビ）*		鴛鴦（チシドリ）を一	紙衾、古衾 遠磨衾、衾雪
氷面鏡（ヒモカヽミ）		水鳥	鴛鴦の衾
霜 三の花		浮寝鳥	綿 綿うち 綿くり
雪		あぢむち*	莚綿、束綿 小袖綿、
六の花 雪の花	あぢの村鳥	鴨 さざ鴨 眞鴨	霜消雪消（シモケシ）
	小鴨 鈴鴨 黒鴨、羽白		炭籠（スミガヽ）
	沈鳧（タカベ）		
	千鳥（チドリ） 川千鳥 濱千鳥		
	むら千鳥 小夜千鳥		
	柴啼千鳥 浦ちどり		
	島ちどり 千鳥		
	鴉（ニホ）かいつぶり		
	鷸（ミソサヽイ）		

*八三頁参看

乾坤宗教	植物	動物	公故人事衣食器財
鰒（フクト） 汁（ふぐじる）	納豆汁	居風呂（スエフロ）	水涕（ミツバナ）
	風呂吹（フロフキ） 大根 蕪	網代（アジロ）	羅沙帽 獅虎帽
	蕎麥（ソバユ）湯	竹筒（タツベ）	風領（エリマキ）巻 首巻
	餅（モチ）搗（アラレ）	筌（ウヘ）	足袋（タビ）
	乾鱈（ホシダラ）	列卒繩（セコナハ）	蒲團（フトンまる）
	鹽鱈（ぼう鱈）	狩杖	火燵（蒲團 火燵櫓ヤグラ）
	金海鼠（キンコ）	風切鎌	榾（ホダ）榾の火
	海鼠腸（コノワタ）雪わた		炭
	榮螺壺燒（サヽエツボヤキ）		白炭、枝炭 炭俵、炭取
			炭頭、硯炭 小野炭、
			炭團（タドン）
			炭籠（スミガヽ）

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
			木兎（ミミヅク）				鍋燒
			臥漬（フシヅケ）				杉燒、貝燒、鋤やき、
			柴漬（シバヅケ）				煮凝（ニコリ）
			氷曳				蠣船（カキフネ）
			はたゝ				燒芋
			鮴（イサビ）				
			鰡（ボラ）				
			河豚（フグ）				
			牡蠣（カキ）				

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
十一月	安仁祭（備前一日）	紅葉散る	鶯子啼（サヽナキ）*	天長節（三日）	髮置*	更衣	火燵切る（火燵あける）
舊十月、孟冬、月、鐘	大麻比古祭（阿波全）	冬木櫻	木兎引（ツクヒキ）*	新嘗祭（二十三日）	帶解（紐直）*	初霜酒	
陽月、神無月、開冬、神去月	都々古別祭（信濃全）	復花（カヘリバナ）	冬の蜂	孟冬の旬（舊十月一日）	袴着*	亥子餅	暦の頒布*
上冬、時雨月、玄冬、小六月	淺間祭（駿河四日）	わすれ咲	冬の蠅	殘菊の宴（全五日）	被初（カツキノ）*	莖大根	
上無、初霜月、秦正、初冬月	熊野祭（出雲全）	山茶花（サンシヤクワ）		射場始（全）	爐開	干大根	
初なかり月、小はる	都農祭（日向五日）	茶の花		拜墳（全一日）*	茶口切	掛菜、青干菜、大根釣	
青女*	靖國祭（武藏六日）	室咲			煖爐會	干鰆（ウルメ）	
神立風*	宗像祭（筑前十五日）	室の梅		氷魚を賜ふ			
神わたゝ	寵門祭（全）	八手（ヤツデ）の花		氷魚の使	歸鄉兵		
立冬（七日前後）	談山祭（大和十七日）	青木の實		玄猪（ゲンチヨ）玄猪餅*			
				燋糟を食ふ*			

*八四頁參看

山茶始開く 地始て凍る	鎭魂祭 二十二日	枇杷の花	爐炭を奉る
雉入海成蛤	大社神事	柊の花 ヒヽラギ	郁子献す ウベ
初氷 初氷解る	神あつめ 神あり	椿の花 カヤ	初雪見參
風定	神の留主	藪柑子 唐橘	水官解厄
下元	神の旅	殘菊	暦奏
亥の子	神送	冬牡丹 寒牡丹	
冬ざれ	香取大饗祭 オホアヘ 旧十月廿日	木の葉	
小雪 廿二日節殘	十夜 *	木の葉舟 木の葉衣	
虹藏て見ず 朔風葉拂ふ	御取越	落葉	
橘始て黃む	法花會 興福寺 全六日	木葉時雨	

初霜 初霜消	杵祭 全十日	木葉雨	
霜柱	初子大黑	朽葉	
霜の花	身延開山忌 全十二日	萩枯	
時雨 シグレ	御命講 全十三日	荻枯	
初時雨 片時雨	御影供 全	菊枯	
北時雨 村時雨	戎子講 全二十日 *	草枯	
夕時雨 霜時雨	龍田垣離 全廿九日	葛枯	
涙時雨 袖時雨	大乘會 法住寺	枯蘆	
小夜時雨 川音の時雨	琴浦祭	雪の下	
松風の時雨	椒尾虫供養	麥蒔	

○○十夜無量壽經に尊を修する事十日十夜なれは他方諸佛の國土に尊を爲す千歲に勝れりと

○○○戎子講十日二十日は古より市の定日なるより起りしか此神商買鎭護の神なり習文拂とて市あり七八頁を見るへし

初雪	神迎 全三十日	
木枯（コカラシ）風*	來山忌 全三日	
冬田	達磨忌 全五日	
	維摩忌 全十日	
	芭蕉忌 全十二日	
	時雨會	
	嵐雪忌 全十三日	
	聖一忌 全十七日	
	凡童忌 全廿三日	

○木枯一日毎に木の葉を拂ひ去る冬風を云ふ
○鞴祭刀工の名匠小鍛治宗近稲荷神の冥助を得て鍛練の効を就すと云ふより金工は此月稲荷を祭り赤飯を配る
○殿上淵醉陰暦十二月中の寅の日公卿酒宴を開き郎詠〜乱舞す
○爲臘祭百神冬至の後三の戌の日猟を爲〜て祖先百神を祭る臘月とは之れに始る唐朝の事也
○神今食天子自から伊勢大神を祀り神饌を供せらる舊六月十一日にもあり
○かづけ綿年末僧侶に綿を賜ふ式あり五位藏人導師以下の肩に一々之れを載するなり
○夜番冬夜火を警め盗を防く爲め町内言合せて夜警を置く昔は太鼓を叩き柏子木を打ちたり
○鹿物雇人等に一月に着るへき衣服調度を與ふ

十二月	極月、乙子月、年積月	師走、限の月、臘月、鼠子月	くれこ月、しーよ稲月	舊十一月、仲冬、冬半	周正、天正月、復月、雪見月	一陽、子の月、暁月、神樂月	辛月、霜降月、霜月、神來月	雪待月、露霜月	乙子朔日 一日		
敢國祭 伊賀 五日	住吉祭 摂津 十五日	饒天皇祭 六日	光格天皇祭 十二日	鶏祭	鞴祭（フイガウ）* 旧十一月八日	甲子祭	子燈心	報恩講	佛名		
冬至梅	太山樒（ミヤマシキミ）	面朶菊	紫根掘	藺植	紅花萌	新生姜	生姜掘				
寒苦鳥	鵲の巣	熊突	狼（オホカミ）	鯨（クヂラ）	鯨船、鯨突、鮫突（ヨリツク）	鰤（ブリ）	貽（ヤガラ）	初の身はつ	しび		
*殿上淵醉	五節舞	年貢納	*爲臘祭百神	臘日	帳臺試	御體御卜奏	*神今食（シンコンシキ）	*かづけ綿	柏梨の勧盃		
年末歸省	*夜番	自身番 柏子木番	捻子番	芝居乘込	歌舞伎足揃	顔見世手打	大手、笹せ花王	芝居顔見世			
初雪衣	雪下衣	麁物（ソウフツ）*	奚酒（ミソレサケ）	玉子酒	生薑酒	霰酒	乙子の餅 一日	柚餅子（ユベシ）製	糟糠（ヌカミソ）作る		
雪車（ソリ）	雪沓	樏（カンジキ）	綱ぬき								

乾坤	宗教	植物	動物	公故	人事	衣食	器財
大雪 七日前後	御神樂 十五日		大口魚（タラ）鱈	忌日の御飯		切干	
閉寒冬と成熊穴に蟄す	大前張（オホサイハリ）小前張、星詣		杜父魚（カクブツ）	太宰貢		新干蕪	
松柏秀つ	採物歌、早歌神樂歌、神遊		くすな魚	荷前便		干蕪釣	
氷花	から神詣ふ庭燎、小鳥衣		海鼠（トラコ）	着駄政		莖漬	
氷衣	千歳、小鳥神阿知女		生海鼠（ナマコ）	鶴くゝり		澤庵漬	
氷の聲*	山の神祭山あひの神		氷魚	節折（ヒヲリ）三十一日		鹽鰤（シホブリ）	
銀竹	加茂北祭					氷鮒	
氷柱（ツラヽ）	日陸奥日陸系					粥施行	
垂氷	鎭魂						
氷の橋	東三條神樂						

乾坤	宗教	植物	動物
露氷	宗像祭		
霜氷	相嘗祭		
鐘氷	大師講		
二見潮干	獸改		
冬至 廿二日前後	春日後日能		
乃東生す蘗角解る	豐明		
雪下出麥	御火燒（オホタキ）		
深雪（ミユキ）	日吉臨祭		
雪礫	杜本祭		
雪女*	神農祭		

氷の聲稚子曉氷を穿ち取て銀鉦となゝ是を敲けは玉磬の林を穿つ響あり行く船の棹にあたる音氷の碎くる音或は曉近く幽靜なる時其響亦〻龜裂するの間美妙の聲あり

雪女深山稻雪稀に女の姿を現す雪の精なりと

雪まるげ	雪こかし 雪おこし	春日御祭	
雪達磨*		烏かけ	
雪布袋 雪佛 雪獅子 雪兎		祇園御火燒	
雪垣		三島酉の市	
吹雪（フブキ）		淺草酉の市	
はたれ雪		山科祭	
かたひら雪		空也堂	
雪しまき		鉢叩（ハチタヽキ）	
雪の聲		曉鉢叩	
雪の聲*		クリスマス 二十五日	

○雪達磨雪佛雪を以て造る前者は戲にして後者は供養の爲と云ふ新拾遺集に丈六の雪佛を造る事あり一握の白雪白から佛像たれは千體万體心の儘なるへし

○雪の聲靜に密なとに當る音をいへり

（一〇二頁）

○齋宮繪馬伊勢齋宮の樹下道の傍に小祠あり晦日の夜里人繪馬をかけて行疫神を慰む

○立土牛像延喜式に大寒の日各二尺の土偶十二と土牛十二とを立つと公事根源には夜半青黃赤黑白の土牛を門に立る事あり漢土の傳來にして治雛の起原なるや

○節季俵笠に齒朶を挿み赤布に面を覆ひ年末市中に踊りつゝ物乞ふ輩なり

○姥等白布に面を包み赤き布を腰につけ笊を携へて戸々に物乞ふ女なり

雪やけ	俎板直シ（本願寺）		
雪竿	道祖神（トロクジン）		
糞（ミソレ）	和布苅（メカリ）神事		
粮（アラレ）	除夜祭		
雹（ヘウ）	大祓 三十一日		
凍（イテル）			
凝（コヽユル）			

○年の市一月の儀式に用うる物を賣る市なり

○鏌の枕說文に熊に似て黃白色力多く鐵を舐むるに千斤を消し其皮溫暖なりと又蘇頌曰く象鼻犀目牛尾虎足にして土人照鑒多く食はると世俗夢を食ふとて此獸を枕下に布けは惡夢を見すと云へり

（一〇〇頁參看）

乾坤	事始（十三日）	師走	年の暮	行く年 年の末	年の別 年の名殘	年の果 年の限	年の湊 年滿つ	年仕舞 年の尾	年の終 惜む年	流るゝ年
宗教	吉田大祓	大原雜侯寢	五條天神詣	をけら賣 勝の餅	大佛煤掃	王寺狐火	*齋宮繪馬（十二月卅日）	札納	星佛賣	追儺（ツイナ）
植物	飾松賣	楪葉賣（ユヅリハ）	葉竹賣	萱勝栗賣（カヤカチグリ）	門松營む	年木樵る	年木 年木積			
動物										
公故	御用終（二十九日）	御髮上（ミクシアゲ）	主水封司井	（水無瀨家）献筆	千葉笑（十二月卅日）	*立土牛像	岡見	厄塚立	貘の枕	貘の札
人事	歲暮贈物	煤拂	煤掃 煤取	忘年會	年忘れ	年籠	懸乞 懸取	*節季候	*姥等	
衣食	衣配（キヌクバリ）	廓衣裳着せ	御事汁（オコトジル）	米洗	餅搗（モチツキ）	餅莚 餅花				
器財	古暦	新暦	暦の末	暦卷納 右に卷暦	卷果る暦	暦賣	柱暦 本暦	神折敷賣	注連繩賣	飾繩賣 穗長賣

（一〇一頁參看）

乾坤	小晦日（コツモゴリ）〈三十日〉	大晦日（三十一日）	大三十日（仝）	大年（仝）	年の夜 年守	除夜				
宗教	鬼やらひ									
植物										
動物										
公故	年內立春									
人事										
衣食										
器財	寶船賣	*年の市	年取物	帳綴	*貘の札（バク）					

明治三十六年十二月二十日印刷
明治三十六年十二月廿八日發行

不許復製

著者　大江滿畝
發行者　早川熊治郎　大阪市南區順慶町第二丁目百三十四番屋敷
印刷者　江間傳三郎　大阪市東區備後町弐丁目七番地
印刷所　株式會社大阪國文社　大阪市東區本町壹丁目備後町

正價金二十五錢

發賣所　東京市日本橋區本石町三丁目
大阪市東區備後町四丁目
神戸市元町通五丁目
寶文館

97
134

97
134

027335−000−9

97−134

新歳時記

大江　涛畝／編

M36
ADJ−0089